

日本における「ホスピタリティ」(hospitality)の受容について

佐々木隆

- ・本受容年表は日本の「ホスピタリティ」の受容状況を確認するために、英語“hospitality”の受容状況、概念としての受容状況を戦後を中心に、『現代用語の基礎知識』、『知恵蔵』、『imidas』、英語辞典類、国語辞典類、『観光白書』、研究書、その他の文献からその使用例を時系列でまとめた。受容年表のまとめ方については以下の通り。

『現代用語の基礎知識』他	英語辞典類 hospitality	国語辞典・外来語辞典類	論文・研究書・記事 ／『観光白書』他
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後、ほぼ毎年刊行された『現用語の基礎知識』『知恵蔵』『imidas』を調査することで、その変遷が明確になるのではないかと推測のもと、公開がインターネットになるまでの紙媒体での掲載状況を確認した。 ・『現代用語の基礎知識』(1972年1月)が「ホスピタリティー」の初出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語として英和辞典を中心に、その掲載状況を確認した。日本語の訳語の問題や場合により解説的な内容まで取り上げているものもあれば、積極的に掲載した。 ・堀達之助編『英和対訳袖珍辞書』(洋書調所、1862年)が“hospitality”掲載の初出。「好ンデ客ヲハ田ル 旅人ヲ善ク遇スル」(p.374) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典・外来語辞典・カタカナ語等において、日本語としてどの程度定着しているかを見るために、その掲載状況及び日本語としての定着度を見るために掲載した。 ・国語辞典系では松村明編『大辞林』三省堂、1990年4月、初版)「ホスピタリティー」の見出し語がある。 ・カタカナ語・外来語系では松浦林太郎編『片假名でひく外国語辞典』(平凡社、1930年11月)には「ホスピタリティー」の見出し語がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1964年より刊行された『観光白書』に注目した。「ホスピタリティ」への言及は1986年より。 ・戦前における記事を含め、特に1960年代以降に注目した。 ・大学の学部・学科設置にも注目した。1963年には日本初の観光科(東洋大学短期大学部)が設立。 ・専門書や研究書についても積極的に取り上げた。 ・必要に応じてオリンピック、観光関係の法令等についても注目した。

- ・受容年表には掲載しなかったが学術団体等における「ホスピタリティ」の取り扱いについて受容年表の後に掲載した。また、最近の研究書で金子章予「ホスピタリティ研究の基礎(1)」(金子章予編『ホスピタリティ概論—ホスピタリティ研究・教育・産業の現状と未来』(学文社、2024年3月)からは「表1. 日本におけるホスピタリティ研究の主要なテーマ」を掲載した。

- ・「ホスピタリティ」「ホスピリティー」についての掲載や言及については「掲載なし」

「見出し語なし」の情報も必要に応じて記載した。

- これまで筆者が発表してきたものが基礎になっている。

「『ホスピタリティ』とは何か—『広辞苑』と『大辞林』の場合」(『日欧比較文化研究』第 25 号、日欧比較文化研究会、2021 年 10 月)、pp.33-42

「書誌から見る日本の“hospitality”の受容(抄)」(『日本英語文化学会会報』第 15 号、日本英語文化学会、2021 年 11 月)、pp.9-16

「辞典から見る「ホスピタリティ」—国語辞典、英語辞典を中心に—」(『日欧比較文化研究』第 26 号、日欧比較文化研究、2022 年 10 月)、pp.37-52

- 今回はリサーチの結果をまとめることを主眼とした。今後このリサーチを基に、「ホスピタリティ」の受容に関する考察を行う。

- 資料調査におけるおもな施設等

国立国会図書館本館(永田町)及び国際子ども館(上野)

神奈川県立図書館本館(桜木町)

東京都立中央図書館(広尾)及び多摩図書館(国分寺)

武蔵野学院大学・武蔵野短期大学図書館

駒澤大学図書館

早稲田大学中央図書館(高田馬場)、戸山図書館(高田馬場)及び所沢図書館(所沢)

国土交通省 観光白書 <https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

- 『観光白書』については 1963 年に施行された観光基本法に則り、1964 年以降毎年刊行されているが、国立国会図書館では欠号などがあるようで、このため神奈川県立図書館本館など、1964 年以降のものが所蔵されている公立図書館を利用した。同様に『現代用語の基礎知識』、『情報・知識 imidas』も欠号があり、同様に公立図書館で創刊号より確認した。

1 日本における「ホスピタリティ」(hospitality) 受容年表

西暦	『現代用語の基礎知識』他	英語辞典類 hospitality	国語辞典・外来語辞典類	論文・研究書・記事 ／『観光白書』他
1814		本木正栄『語厄利亜語林大成』 ※日本で最初の英和辞典。ここでは hospitality の見出し語はない。		
1862		堀達之助編『英和对訳袖珍辞書』(洋書調所) 好ンデ客ヲハ田ルヲ旅人ヲ善ク遇スルヲ(p.374) ※日本で最初の刊本		
1873		柴田昌吉・子安峻編『英和字彙』(日就社、1月) 好ク客ヲ歓待ス ヲ善ク客ニ會釋スルヲ(p.495)		
1886		嶋田三郎校訂・市川義夫纂訳『英和和英字彙』(如雲閣、1月) 好ク客ヲ歓待スルヲ善ク客ニ會積スルヲ(p.269)		
1888		豊田千達訳『ダイヤモンド英和辞典 挿画訂訳』(武田福蔵、5月) 見出し語なし。 柴田昌吉・子安峻他編『英和字彙』(新古堂書店、7月、再版) 好ク客ヲ歓待ス ヲ善ク客ニ會釋		

		スルヲ (p.215)		
1897		<p>中澤澄男・山中 鉦太郎・島田豊 編『英和字典』 (大倉書店、9 月) 賓客ヲ歓待スル ヲ、善ク客ヲ遇 スルヲ (p.297) 高野岩三郎他 『和英辞典』(大 倉書店、12月) で は 「Motenashi」 の英訳に hospitality は使 用されていない。</p>		
1899		<p>高野岩三郎・山 崎要七郎・高野 房太郎『A new Japanese- English dictionary』(大 倉書店、5月、第 10版)では Motenashi の英 語で hospitality は使用されてい ない。</p>		
1901		<p>和田垣謙三『新 英和辞典』(大倉 書店、11月) 賓客を歓待する と、善く客を遇 すること(p.410)</p>		
1902		<p>神田乃武他編 『新訳英和辞 典』(三省堂書 店、6月) 歓待。厚遇。 (p.489)</p>		
1904			<p>林幸行／南條文 雄増補『国語辞 典』(修学堂、 12月)</p>	

			見出し語なし。	
1909		井上十吉編『新訳和英辞典』（三省堂、3月）では「Kantai」「Motenashi」の英語でhospitalityは使用されていない。		
1910		上野陽一他編『学生英和辞典』（博報堂、11月）懇篤。深切。（p.375）		
1914			勝屋英造編『外来語辞典』（二松堂書店、2月）見出し語なし。	
1915			上田万年他編『日本外来語辞典』（三省堂書店、5月）見出し語なし。	
1920		神田乃武・金澤久編『袖珍英和辞典』（三省堂、4月、大改訂81版）歓待。厚遇。（p.437）		
1927		中島理毅夫『昭和中等英和辞典』（昭和中等会、10月）見出し語なし	大町佳月・野崎小蟹編『現代国語辞典』（岡村書店、4月）見出し語なし。	
1928		斎藤秀二郎『斎藤和英大辞典普及版』日英社、6月）Kantai〔歓待〕welcome; entertainment;	有馬祐政監修／國語研究會編『新外来語辞典』（富文館、7月、第3版）見出し語なし。	

		Hospitality; fête (p.383)		
1930			松浦林太郎編 『片假名でひく 外国語辞典』 (平凡社、11 月) ホスピタリテ ー hospitality, 歓待 (p.264) 栗津清達編『最 新外来語辞典』 (先進堂書店、 5月) 見出し語なし。	
1931				鈴木梅四郎『日本医 業経営法の革新』(研 文社、10月) ※『六』ホスピタリ チーの支持者」の小 見出しあり。
1933		岡倉由二郎編 『初級英語辞 典』(研究社、11 月) 厚遇、歓待。 (p.275)		
1940				「閑却出来ないホス ピタリティー ーラ ルフ・ヒッツのホテ ル哲學」(『観光』第 8巻第1号、日本日本 観光連盟、1月) ヒッツ氏に依れば、 この好成績も格別偉 大なる目新しい方針 を最小した結果では ないのである。他の 多くのホテル・メン が閑却して来た處に 目を付け、従来 of 消 極的ホスピタリテ ーの因襲を打破した いに過ぎない。ヒッ ツ氏経営法にはその 如何なる細部をとつ て見てもセールスマ

				ンシップが窺はれる。つまり非常な敏感さを以てお客の慾望を満足させ、快してお客様の居心地を悪くさせないいふショウマンシップとも謂ふ可きものである。(永田譯) Hospitality Becomes Big Business — <i>Reader's Digest.</i> (p.55)
1941			上田万年・松井簡治『大日本国語辞典』(富山房、2月、第5卷修訂) 見出し語なし。 荒川惣兵衛『外来語辞典』(富山房、6月) 見出し語なし。	
1942		山本三郎『標準中東英和辞典』(純正社、5月) もてなしのよいこと、歓待。 (p.374)		
1946		竹原常太『スタンダード和英辞典』(大修館書店、11月、第21版) Kantai (歓待) hospitality; welcome; hospitable treatment; a warm reception (p.493)		
1948	『現代用語の基礎知識』(創刊号) (時局月報社、11月) 掲載なし。	三省堂編輯所編『集約英和辞典』(三省堂、7月、第7版) もてなしのよいこと。歓待。 (p.137)	新國語研究会『簡明國語辞典』(教學研究社、11月) 見出し語なし。	
1949	『現代用語の基礎		西澤秀雄『最新	獅子文六「てんやわ

	知識』（時局月報社、5月）掲載なし。 『現代用語の基礎知識』（時局月報社、12月）掲載なし。		國語辞典』（日本通信教育會、1月） 見出し語なし。 藤原惠編『新聞語辞典』（朝日新聞社、12月） 見出し語なし。	んや』（『毎日新聞』1948年11月22日～1949年4月14日） のうちの1949年3月25日 「水落ちて石露わる（二）」のうち 女性はその肉体を献げて、ホスピタリティ（親切）を表現するなんて、考えられるだろうか。 獅子文六『てんやわんや』（新潮社、7月） 「水落ちて石露わる」のうち 女性はその肉体を献げて、ホスピタリティ（親切）を表現するなんて、考えられるだろうか。（p.239）
1950		開拓社編集所編『新中等英和辞典』（開拓社、4月、再版） もてなしのよいこと、歓待。 （p.374）		
1951	『現代用語の基礎知識』（自由國民社、1月）以降同じ。 掲載なし。			獅子文六『てんやわんや』（新潮文庫、新潮社、6月） 「水落ちて石露わる」のうち 女性はその肉体を献げて、ホスピタリティ（親切）を表現するなんて、考えられるだろうか。（p.225）
1952			金田一京助他『明解国語辞典』（三省堂出版、4月、改訂版） 見出し語なし。	高田寛「スイス・ホスピタリティー」（『国鉄線』第7巻第38号、交通協力会、7月） 「スキス・ホスピタリティー」、一寸日本語にピッタリと来る適訳と見出し難い

				が、真心を以て親切に外国の旅行のお世話をするという意味であろう。観光国瑞西には余り大金を投じた観光施設も見当たらない。然し海外から来る観光客は美しいこの国の風景に浸り乍ら気持よく、のんびりと滞在できる。三、四日の予定もついつい一週間滞在になつて終う。明媚な風光に加えて、このスキス・ホスピタリティーがこの國をして偉大な観光国たらしめたのではあるまいか。(p.8)
1953	『現代用語の基礎知識』(10月) 掲載なし。		伊藤文雄編『社会常識 現代用語辞典』(華頂書房、11月) 見出し語なし。	片山広子『燈火節』(暮らしの手帖社、6月) 「あけび」のうちお茶を出すといふことが昔から日本人のホスピタリティーであつて、奥さんみづから立派な古めいたきょうすに銀びんのお湯を注いで替へてくれるお茶は大へんなホスピタリティーにちがひない。(p.85)
1954			広田栄太郎・松尾拾『最新標準国語辞典』(新見出版社・啓林館、4月) 見出し語なし。	
1955			新村出編『広辞苑』(岩波書店、5月、初版) 見出し語なし。 上飯坂好実編『学習国語辞	

			典』（東雲堂、5月） 見出し語なし。	
1956			荒川惣兵衛『外来語辞典』（弘文堂、1月） 見出し語なし。 朝日新聞社編『新聞語辞典1956年版』（朝日新聞社、7月） 見出し語なし。	
1957	『現代用語の基礎知識』（3月） 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1957年版』（朝日新聞社、6月）見出し語なし。	
1958		福原麟太郎編『研究社新スクール英和辞典』（研究社辞書部、1月、改訂新版） 親切なもてなすこと；歓待、厚遇。（p.603） 島村盛助他『岩波英和辞典』（岩波書店、4月、最新版） 歓待、手厚いもてなし；(pl.) 親切（p.434） 佐々木高政編『学習英和辞典』（金子書房、5月） 見出し語なし。	朝日新聞社編『新聞語辞典1958年版』（朝日新聞社、8月） 見出し語なし。	ピエール・ダニノス／堀口大学訳『見るもの食うもの愛するものへそまがりのフランス探訪』（新潮社、5月） 「VII ホスピタリティーと洋食の掟」（pp.77-88） ※ Pierre Daninos. <i>Carnets du Major Thompson</i> の翻訳。
1959		三省堂編修所編『最新明解英和辞典』（三省堂、3月、第2版） もてなしのよいこと。 歓待。（p.413）		1964年の東京オリンピック開催決定（5月26日）

1960	『現代用語の基礎知識』(9月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。	町野静雄編『学習英和辞典』(紀元社、5月) 親切なもてなし、歓待 (p.248)	朝日新聞社編『新聞語辞典1960年版』(朝日新聞社、6月) 見出し語なし。	『Hotel Review』(第122号、日本ホテル協会、6月) 鈴木博「欧州の旅(十五) スイス・ホスピタリティ(一)」 (pp.15-17) 『Hotel Review』(第123号、日本ホテル協会、7月) 鈴木博「欧州の旅(十六) スイス・ホスピタリティ(二)」 (pp.20-22)
1961	『現代用語の基礎知識』(5月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。 『現代用語の基礎知識』(9月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1961年版』(朝日新聞社、6月) 見出し語なし。	大平善悟編『法学の知恵』(世相と法律シリーズ: 1961年版、井上書房、5月) 植田捷雄「サザン・ホスピタリティ(アメリカの思い出)」(pp.73-80) 阿川弘之「ホノルルまで」(大宅壮一・桑原武夫・阿川弘之編『世界の旅[1]日本出発』中央公論社、11月) のちになって私は、ハワイヤン・ホスピタリティという言葉があることを知った。訳せばそれは、ハワイ流のもてなしということであろうが、無償の一種底抜けの親切という意味をふくんでいるらしい。私は、藤倉のおばあさんを知り、滝岡夫妻を知ったことで、最も代表的なハワイヤン・ホスピタリティを経験することになったようであった。それ以後私は、その居心地のいい便利な離れ

				で、毎日十三時間ぐらい寝て、文字通り夢見心地の、怠惰なハワイの一月を過ごした。(pp.34-35)
1962	『現代用語の基礎知識』(11月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1962年版』(朝日新聞社、7月) 見出し語なし。	
1963	『現代用語の基礎知識』(5月) 吉田健一「外来語の早わかり辞典」では掲載なし。	稲村松雄編『例解初級英和辞典』(小学館、4月) 見出し語なし。 稲村松雄・梶木隆一編『ユニヴァース英和辞典』(小学館、4月、改訂版) [旅行者・客などを]親切にもてなすこと、厚遇 (p.285)		東洋大学短期大学部観光科(4月) ※日本で最初の観光学科 観光基本法(6月)では「ホスピタリティ」の表現なし。 『Hotel Review』(第158号、日本ホテル協会、6月) 岡崎冬彦「悲哀感とホスピタリティ」(pp.8-9)
1964	『現代用語の基礎知識』(1月) 吉田健一「外来語・早わかり辞典」等、掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1964年版』(朝日新聞社、6月) 見出し語なし。	内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和39年版』(大蔵省印刷局、4月) ※1963年の観光基本法により1964年より『観光白書』の刊行が開始される。「Ⅲ外客の誘致及び外客受入体制の状況」では「ホスピタリティ」への言及はない。1986年より言及されるようになる。 東京オリンピック(10月10日～10月24日)
1965	『現代用語の基礎知識』(1月) 吉田健一「外来語・早わかり辞典」等、掲載なし。	研究社辞書部編『高校英和辞典』(研究社、1月) もてなし、歓待	佐藤務『現代用語辞典』(むさし書房、6月) 見出し語なし。	兼松保一『野外活動ーキャンプとユース・ホステル』(ベースボール・マガジン、5月)

	し。	(p.482)		「2 ホスピタリティについて」 (pp.163-169) 内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和40年版』(大蔵省印刷局、4月) 「Ⅲ 外客の誘致及び外客受入体制の状況」では「ホスピタリティ」への言及はない。
1966			久松潜一他監修 『講談社国語辞典』(講談社、11月) 見出し語なし。	内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和41年版』(大蔵省印刷局、8月) 「Ⅲ 外客の誘致及び外客受入体制の状況」では「ホスピタリティ」への言及はない。
1967	『現代用語の基礎知識』(1月) 「最新語の解説」等、掲載なし。			岡地勝二『アメリカの青春』(京文社、5月) 「サウザン・ホスピタリティー」(pp.84-88) 内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和42年版』(大蔵省印刷局、7月) 「Ⅰ 国際観光の状況」のうち「3 外客誘致の状況」「4 外客接遇の状況」では「ホスピタリティ」への言及はない。
1968	『現代用語の基礎知識』(1月、六八年版増補)、掲載なし。		金田一京助他編 『三省堂国語辞典』(三省堂、1月、新装版) 見出し語なし。	久保田弘子『ヨーロッパひとりある記』(白陵社、7月) 「ホスピタリティについて」(pp.170-172) 内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和43年版』(大蔵省印刷局、5月)

				<p>「I 国際観光の振興に関する施策」では「ホスピタリティ」への言及はない。</p> <p>秋山加代・小泉タエ『父小泉信三』(毎日新聞社、10月) 「父のホスピタティ」(pp.108-112)</p>
1969	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 「最新語の解説」等、掲載なし。</p>		<p>新村出編『広辞苑』(岩波書店、5月、第2版) 見出し語なし。 栗原圭介・新垣淑明編『プリンス国語辞典』(金園社、5月) 見出し語なし。</p>	<p>『Hotel Review』(第225号、日本ホテル協会、1月) 川口四郎吉「アメリカン・ホスピタリティと経営の合理化悲哀感」(pp.30-31) 内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和44年版』(大蔵省印刷局、5月) 「2 国際観光の状況」で「ホスピタリティ」への言及なし。</p>
1970	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 「最新語の解説」等、掲載なし。 『現代用語の基礎知識』(12月) 吉田健一監修「日常の外来語」 見出し語なし。</p>			<p>佐々木宏茂「ホスピタリティ産業の生産要素の標準化について」(『東洋大学短期大学紀要』第1巻、東洋短期大学紀要、3月) ※初期の論文 大阪万国博覧会(3月15日～9月13日) 内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和45年版』(大蔵省印刷局、5月) 「I 国際観光」のうち「1 外国人旅行者の誘致」では「ホスピタリティ」への言及なし。 『国立公園』(第253号、自然公園財団、12月)</p>

				大久保清和「特集カナダ アメリカ国立公園の視察旅行（Ⅱ）公園人について—仕事振りとホスピタリティー」(pp.12-14)
1971				内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和46年版』（大蔵省印刷局、5月） 「Ⅱ 国際観光の状況」のうち「3 外国人旅行者の誘致の状況」、「4 外国人旅行者の接遇状況」では「ホスピタリティー」への言及なし。 札幌冬季オリンピック（2月3日～13日）
1972	『現代用語の基礎知識』（1月） 上野景福監修「マスコミに出る外来語・略語・最新総解説」 ホスピタリティー（hospitality） 客のもてなしのよいこと。(p.1261)		三省堂編修所編『コンサイス外来語辞典』（三省堂、5月） 見出し語なし。	総理府編『観光白書昭和47年版』（大蔵省印刷局、6月） 「Ⅱ 国際観光の状況」のうち「2 わが国の国際観光の状況」中「4 外国人旅行者の接遇状況」で「ホスピタリティー」への言及なし。
1973	『現代用語の基礎知識』（1月） 上野景福監修「マスコミに出る外来語・略語」 ホスピタリティー（hospitality） 客のもてなしのよいこと。(p.1315)	岩崎民雄編『研究社現代英和辞典』（研究社、9月） 親切にもてなすこと、歓待、厚遇；（新思想などに対する）受容力、理解力 (p.622)		総理府編『観光白書昭和48年版』（大蔵省印刷局、6月） 「Ⅱ 国際観光の状況」のうち「4 外国人旅行者の接遇状況」では「ホスピタリティー」への言及なし。
1974	『現代用語の基礎知識』（1月） 岡田喜秋「旅行用語の解説」のうち ホスピタリティー・スイーツ (hospital suite) 簡単にスイートと		金田一京助編『辞海』（三省堂、1月、新装） 見出し語なし。	『レジャー産業資料』（第7巻第5号、総合ユニコム、5月） 編集部「ホテル東京—ホテルに医療を組み込み企業にホスピタリティーを提供」 (pp.116-119)

	<p>もいい、バス付きベッド・ルームと、居間（兼応接間）などがあるホテルの特別室。 （p.1190） 上野景福監修「マスコミに出る外来語・略語」 ホスピタリティー（hospitality） 客のもてなしのよいこと。（p.1315）</p>			<p>総理府編『観光白書（昭和49年度版）』（大蔵省印刷局、5月） 「第8章 国際振興」には「1 外国人旅行者の誘致」「2 外国人旅行者に対する接遇」等で「ホスピタリティー」への言及はない。</p>
1975	<p>『現代用語の基礎知識』（1月） 岡田喜秋「旅行用語の解説」のうち ホスピタリティー・スイーツ (hospital suite) 簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間（兼応接間）などがあるホテルの特別室。 （p.1137） 上野景福監修「マスコミに出る外来語・略語・最新総解説」 ホスピタリティー（hospitality） 客のもてなしのよいこと。（p.1245）</p>	<p>佐々木達編『新コンサイス英和辞典』（三省堂、9月） 親切、もてなし（外来者や来客に対する〔が受ける〕）厚遇（p.547）</p>	<p>日本大辞典刊行会編『日本国語大辞典』（第18巻、小学館、11月） 見出し語なし。</p>	<p>井上博文「ホスピタリティー・サービス産業における資本予算」（『東洋大学短期大学紀要』第6巻、東洋大学短期大学、3月）※初期の論文 『月刊総務』（第13巻第3号、池田書店、3月） 樋口恵子「G.M.「ホスピタリティーの欠如」」（pp.12-21） 総理府編『観光白書昭和50年版』（大蔵省印刷局、6月） 「第2章 国際観光の状況と講じた施策」のうち「4 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティー」への言及なし。</p>
1976	<p>『現代用語の基礎知識』（1月） 岡田喜秋「旅行用語の解説」のうち ホスピタリティー・スイーツ (hospital suite) 簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間（兼応接間）などがあるホ</p>		<p>法学書院編集部編『ぜひ知っておきたい時事用語辞典<'77>』（法学書院、1月） 見出し語なし。 新村出編『広辞苑』（岩波書店、12月、第2版補訂版） 見出し語なし。</p>	<p>ヘンリ・ヌーウエン、初見まり子「歓待のすすめーホスピタリティーとキリスト者」（『神学ダイジェスト』第40号、上智大学神学会神学ダイジェスト編集委員会、6月）※初期の論文 総理府編『観光白書昭和51年版』（大蔵</p>

	<p>テルの特別室。 (p.1163) 上野景福監修・横井忠雄編「マスコミに出る外来語・略語・最新総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1274)</p>			<p>省印刷局、6月) 「第2章 国際観光の状況と講じた施策」のうち「4 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティ」への言及なし。</p>
1977	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 岡田喜秋「旅行用語の解説」のうちホスピタリティー・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間(兼応接間)などがあるホテルの特別室。(p.1139) 上野景福監修・横井忠雄・村石利夫編「マスコミに出る外来語・略語・最新総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1191)</p>			<p>総理府編『観光白書昭和52年版』(大蔵省印刷局、6月) 「第2章 国際観光の状況と講じた施策」のうち「4 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティ」への言及なし。</p>
1978	<p>『現代用語の基礎知識』(2月) 『現代用語の基礎知識』(1月) 岡田喜秋「旅行用語の解説」のうちホスピタリティー・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間(兼応接間)などがあるホテルの特別室。(p.1140)</p>		<p>金田一春彦・池田弥二郎編『学研国語大辞典』(学習研究社、4月) 見出し語なし。 旺文社編『旺文社新国語辞典』(旺文社、5月) 見出し語なし。</p>	<p>総理府編『観光白書昭和53年版』(大蔵省印刷局、5月) 「第2章 国際観光の状況と講じた施策」のうち「4 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティ」への言及なし。 阿川弘之『米内光政』(下巻、新潮社、12月) 第23章のうち豪放偉丈夫、慶応の</p>

	上野景福監修・横井忠雄・村石利夫編「マスコミに出る外来語・略語・最新総解説」ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1215)			こわい塾長先生が、米内の前だといいい子になり、「ホスピタリティーの権化」になる。(p.233)
1979	『現代用語の基礎知識』(1月) 岡田喜秋「旅行用語の」のうちホスピタリティー・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間(兼応接間)などがあるホテルの特別室。(p.1171) 堀内克明「マスコミに出る外来語・略語・総解説」ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1216)	小学館ランダムハウス英和大辞典編集委員会編『小学館ランダムハウス英和大辞典』(パーソナル版全1巻)小学館、1月) hospitality(客や他人の)1厚遇、歓待 2暖かく親切にもてなす心、歓待する精神 (p.1232)	時枝誠記・吉田精一編『角川国語中辞典』(角川書店、12月) 見出し語なし。	総理府編『観光白書昭和54年版』(大蔵省印刷局、5月) 「第2章 国際観光の状況と講じた施策」のうち「4 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティー」への言及なし。
1980	『現代用語の基礎知識』(1月) 岡田喜秋「旅行用語の」のうちホスピタリティー・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間(兼応接間)などがあるホテルの特別室。(p.1199) 堀内克明「マスコミに出る外来語・略語・総解説」ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよ			総理府編『観光白書昭和55年版』(大蔵省印刷局、5月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「2 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティー」への言及はない。

	いこと。(p.1249)			
1981	『現代用語の基礎知識』(1月) 岡田喜秋「旅行用語の」のうち ホスピタリティ・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間(兼応接間)などがあるホテルの特別室。(p.1103) 堀内克明「マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1151)		三省堂編修所編『コンサイス外来語』(三省堂、11月、第3版) 見出し語なし。	総理府編『観光白書昭和56年版』(大蔵省印刷局、6月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「2 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティ」への言及はない。
1982	『現代用語の基礎知識』(1月) 岡田喜秋「旅行用語の」のうち ホスピタリティ・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間(兼応接間)などがあるホテルの特別室。(p.1134) 堀内克明「マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1179)	小稲義男編『研究社新英和大辞典』(研究社、9月、第5版) hospitality 1 旅行者や客を親切にもてなすこと、歓待、厚遇 2 [新思想などに対する] 受容力、理解力 (p.1019)	金田一京助他編『三省堂国語辞典』(三省堂、2月、第3版) 見出し語なし。 桐原徳重他編『講談社国語辞典』(講談社、9月) 見出し語なし。	総理府編『観光白書昭和57年版』(大蔵省印刷局、5月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「2 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティ」への言及はない。 見里朝正「ホスピタリティールーム」(『日本農薬学会誌』(第7巻特別号、日本農薬学会、12月)(pp.109-711)
1983	『現代用語の基礎知識』(1月) 岡田喜秋「旅行用語の」のうち ホスピタリティ・スイーツ (hospital suite)簡単にスイ	伊藤健三・廣瀬和清編『アローチ英和辞典』(研究社、9月) もてなし、歓待	ダイヤモンド社編『時事問題の基礎知識1983』(ダイヤモンド社、1月) 見出し語なし。	総理府編『観光白書昭和58年版』(大蔵省印刷局、5月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「2 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリ

	<p>ートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間（兼応接間）などがあるホテルの特別室。(p.1118)</p> <p>堀内克明「マスコミに出る外来語・略語・総解説」</p> <p>ホスピタリティー (hospitality)</p> <p>客のもてなしのよいこと。(p.1163)</p>		<p>新村出編『広辞苑』（岩波書店、12月、第3版）</p> <p>見出し語なし。</p>	<p>ティ」への言及はない。</p>
1984	<p>『現代用語の基礎知識』（1月）</p> <p>岡田喜秋「旅行用語の」のうち</p> <p>ホスピタリティー・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間（兼応接間）などがあるホテルの特別室。(p.1184)</p> <p>堀内克明「マスコミに出る外来語・略語・総解説」</p> <p>ホスピタリティー (hospitality)</p> <p>客のもてなしのよいこと。(p.1230)</p>	<p>松田徳一郎監修『リーダーズ英和辞典』（研究社、1月）</p> <p>hospitality 1親切にもてなすこと、歓待、厚遇、ホスピタリティー 2 ((新思想などに対する))受容力、理解力(p.1064)</p>	<p>ダイヤモンド社編『時事問題の基礎知識1984』（ダイヤモンド社、1月）</p> <p>見出し語なし。</p> <p>中田武司編『常用国語辞典』（高橋書店、7月）</p> <p>見出し語なし。</p>	<p>『「ホテル用語小辞典」（立教大学ホテル研究会、1984年度）</p> <p>ホスピタリティー ⊙ カクテルパーティなど小グループで楽しめる部屋のこと。ファンクションルームかパーラーのこと。(p.46)</p> <p>※ ⊙ ベル部門</p> <p>総理府編『観光白書昭和59年版』（大蔵省印刷局、5月）</p> <p>「第2章 国際観光の振興」のうち「2 外国人旅行者の受入れ」で「ホスピタリティー」への言及はない。</p>
1985	<p>『現代用語の基礎知識』（1月）</p> <p>岡田喜秋「旅行用語の」のうち</p> <p>ホスピタリティー・スイーツ (hospital suite)簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間（兼応接間）などがあるホテルの特別室。(p.1250)</p> <p>堀内克明「マスコミに出る外来語・</p>		<p>山口明穂・秋本守英編『旺文社詳解国語辞典』（旺文社、11月）</p> <p>見出し語なし。</p> <p>ダイヤモンド社編『時事問題の基礎知識1985』（ダイヤモンド社、1月）</p> <p>見出し語なし。</p> <p>三省堂編修所編『広辞林』（三</p>	<p>つくば万博（3月17日～9月16日）</p> <p>総理府編『観光白書昭和60年版』（大蔵省印刷局、5月）</p> <p>「第2章 国際観光の振興」のうち</p> <p>「2 外国人旅行者の受入れ」</p> <p>我が国を訪れた外国人旅行者が我が国をより良く理解できるようにするために外国人旅行者が主体的に日本の姿を見聞き</p>

	略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよ いこと。(p.1281)		省堂、3月、第 6版) 見出し語なし。	し、日本人との触れ 合いの機会を持つこ とにより、日本の姿 を多面的に認識する ことが重要である。 (p.60)「ホスピタ リティ」への言及はな い。1985年の『観光 白書』まで言及はな い。
1986	『現代用語の基礎 知識』(1月) 堀内克明「マスコ ミに出る外来語・ 略語・総解説 1986年外来語年 鑑」ではホスピタ リティーの見出し語 はなく、ホスピタ リティー・スイート がある。 ホスピタリティー・ スイート (hospitality suite) 簡単にスイ ートともいい、バ ス付きベッド・ル ームと、居間(兼 応接間)などがあ るホテルの特別 室。(p.1295)	小川邦男編『サ ンライズ英和辞 典』(旺文社、11 月) (客を)親切に もてなすこと、 歓待、厚遇 (p.673) 三戸雄一他編 『現代ビジネス 英和辞典』(開拓 社、3月) (客を)親切に もてなすこと、 歓待(p.611) 大塚高信他編 『カレッジクラ ウン英和辞典』 (三省堂、10 月、第2版) (未知の人に) あいそのよいこ と、(来客など を)手厚くもて なすこと、歓 待；(英)無料 の食事と宿泊 (p.957)	新世紀辞典編集 部編『学研新世 紀百科辞典』(6 月、第2版) 見出し語なし。 エミール・バン ヴェニスト他/ 蔵持不三也他訳 『インド=ヨー ロッパ諸制度語 彙集』(I、経 済・親族・社 会、言叢社、5 月) Chapitre 7 客 人歓待制度 (pp.80-95) 尚学図書編『言 泉』(小学館、 12月、初版) 見出し語なし。	石川照雄編著『スイ スブック ホスピタ リティー・デザイ ン・ツ ール』(別冊商店建 築 26 ちょっと違 ったデザイン・シ リーズ、商店建築 社、2月) 総理府編『観光白 書昭和61年版』 (大蔵省印刷局、 5月) 「第2章 国際観 光の振興」のうち、 「2 外国人旅行者 の受入れ」 …外国人が独り歩 きできる環境を創 出するとともに、 外国人旅行者が、 日本人との触れ合 うことのできる ホスピタリティー を整えた観光地を 作ることが大きな 課題となっている。 (p.73) 1986年より「ホ スピタリティー」 への言及がある。
1987	『現代用語の基礎 知識』(1月) 堀内克明「マスコ ミに出る外来語・ 略語・総解説 1987年外来語年 鑑」ではホスピタ リティーの見出し 語はなく、ホスピ タリティー・スイ ー	小稲義男他編 『新英和中辞 典』(研究社) 親切にもてなす こと、歓待、厚 遇(p.820) 小西友西他編 『小学館プログ レッシブ英和中 辞典』(小学館、	加島祥造他訳 『研究社カタカ ナ英語辞典』 (研究社、8 月) 見出し語なし。	総理府編『観光白 書昭和62年版』 (大蔵省印刷局、 5月) 「第2章 国際観 光の振興」のうち、 「3 外国人旅行者 の受入れ」 …外国人が独り歩 きできる環境を創 出するとともに、 外国人

	<p>トがある。 ホスピタリティ・スイート (hospitality suite) 簡単にスイートともいい、バス付きベッド・ルームと、居間(兼応接間)などがあるホテルの特別室。(p.1295) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 創刊 徳岡孝夫監修/山本慧一編「外来語・略語」のうちホスピタリティー [hospitality] 歓待、親切なもてなし (p.1379)</p>	<p>1月、第2版) hospitality 1 厚遇、歓待 2 (新思想などの) 理解、受容 3 温かくもてなす心、歓待の精神 (pp.899-900) 稲村松雄他編『スピリッツ英和辞典』(小学館、1月) 1 (客や他人に対する) 親切なもてなし、歓待。 2 もてなす心。(p.732) 中村敬編『ファースト英和辞典』(三省堂、3月) 見出し語なし。</p>		<p>旅行者が、日本人との触れ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな解題となっている。 (pp.91-92)</p>
1988	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「1988年外来語年鑑 マスコミに出る外来語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1228) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 別冊 徳岡孝夫監修/山本慧一編『国際化時代の外来語・略語』のうちホスピタリティー [hospitality] 歓待、親切なもてなし (p.267)</p>			<p>総理府編『観光白書 昭和 63 年版』(大蔵省印刷局、5月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「3 外国人旅行者の受入れ」 …外国人が独り歩きできる環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人との触れ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな解題となっている。 (p.73) 野田正彰『いきがい シェアリング 産業構造転換期の勤労意識』(中央公論社、1988年10月) 高齢化対策についても二つの発想が存在する。一つは、地元</p>

				<p>の老人の処理についての政策である。もう一つは、どうせ老人しか残らないのならば、いっそのことシルバー産業を始めようという発想である。だが、観光と同じく、対人サービスや介護には永い文化の蓄積が必要である。いかに素朴で善良な人々がいるとはいえ、例えば、石炭を掘っていた人が急に高齢者に優れたホスピタリティを表現するのは難しい。 (p.103)</p>
1989	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「1989年外来語・略語年鑑マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1228) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 飛田茂雄、J.M.Varma 監修「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] 歓待。親切なもてなし。(p.1394)</p>		<p>斎藤栄二郎編『外国からきた新語辞典』(集英社、4月、第6版) ホスピタリティー 歓待。厚遇。(p.363)</p>	<p>田中掃六『伸びる会社は「サービス」を組織化するホスピタリティマインドを育てる「ヒューマンQC」のすすめサービス業・ホテル・旅館・飲食業版』(HBJ business express、HBJ 出版局、5月) 総理府編『観光白書平成元年版』(大蔵省印刷局、6月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「3 外国人旅行者の受入れ」 …外国人が独り歩きできる環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人との触れ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。 (p.82)</p>
1990	『現代用語の基礎	宮部菊男・杉山	松村明編『大辞	総理府編『観光白書

	<p>知識』(1月) 堀内克明「1990 外来語・略語年鑑 マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1273) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 飛田茂雄、J.M.Varma 監修「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] 歓待。親切なもてなし。(p.1459) 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし。歓待。</p>	<p>忠一編『ロイヤル英和辞典』(旺文社、3月) 1 親切なもてなし 2 受容性、歓迎 (p.816)</p>	<p>林』三省堂、4月、初版) ホスピタリティー 【hospitality】 ①訪問者を丁重にもてなすこと。②否定性の宗教者や異端からやってきた特殊な職業人を神の化身のごとく見なして歓待する風習。異人歓待。外者歓待。(p.2230) 石綿敏雄編『基本外来語辞典』(東京堂出版、9月) ホスピタリティー 客のもてなしのよいこと。親身になって世話をすること。至れり尽くせりの心使い。◆ラテン語 39 hospes 「客をもてなす主人」項参照)から。(p.808)</p>	<p>平成2年版』(大蔵省印刷局、6月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「3 外国人旅行者の受入れ」 …外国人が独り歩ける環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人との触れ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな解題となっている。(p.67)</p>
1991	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「1991 外来語・略語年鑑 マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1330)</p>	<p>竹林滋・小島義郎編『ライトハウス英和辞典(2色刷)』(研究社、2月、第2版) 親切にもてなすこと、歓待、厚遇 (p.685) 小西友七他編『<コンパクト</p>	<p>新村出編『広辞苑』(岩波書店、11月、第4版) 見出し語なし。</p>	<p>総理府編『観光白書平成3年版』(大蔵省印刷局、5月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「3 外国人旅行者の受入れ」 …外国人が一人歩ける環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人と</p>

	<p>総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 飛田茂雄、J.M.Varma 監修 「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。②受容。柔軟性。(p.1454) ※この年より「②受容。柔軟性。」が加わった。 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1415)</p>	<p>版>プログレッシブ英和中辞典』(小学館、3月) 1 厚遇、歓待 2 (新思想などの)理解、受容 (pp.899-900)</p>		<p>触れ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。 (p.67)</p>
1992	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「1992 外来語・略語年鑑 マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1348) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 飛田茂雄、J.M.Varma 監修 「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。②受容力。柔軟性。(p.1422) 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月)</p>	<p>桃沢力他編『ニューサンライズ英和辞典(2色版)』(旺文社、1月) hospitality(客を)親切にもてなすこと、歓待、厚遇 (p.698) 亀井俊介編『スコットフォーズマン英和辞典』(角川書店、11月) 歓待、親切な [暖かい] もてなし (p.793)</p>	<p>木村正男編『カタカナ語略語辞典』(アジア出版、3月) ホスピタリティー [hospitality] 厚遇、歓待、親切なもてなし。 (p.116)</p>	<p>総理府編『観光白書平成4年版』(大蔵省印刷局、6月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「3 外国人旅行者の受入れ」 …外国人が一人歩きできる環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人とふれ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。 (p.81) 以降の『観光白書』でも「ホスピタリティー」への言及がある。 日本ホスピタリティー研究会設立(8月)</p>

	河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1455)			
1993	堀内克明「1993 外来『現代用語の基礎知識』(1月) 語・略語年鑑 マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1331) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 別冊付録 飛田茂雄、J.M.Varma 監修『国際情勢社会の最新版 外来語・略語』 見出し語なし。 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1327)	小稲義男編集代表『研究社英和大辞典』(研究社、第5版) 1 旅行者や客を親切にもてなすこと、歓待、厚遇 2 [新思想などに対する] 受容力、理解力(p.1019) 柴田徹士編『ニュー・アンカー英和辞典』(学習研究社、3月、新版2色刷) (客に対する) 親切なもてなし、歓待 (pp.657-658) 竹林滋・小島義郎編『ライトハウス英和辞典(2色刷)』(研究社、2月、第2版) 親切にもてなすこと、歓待、厚遇(p.685) 小西友七他編『<コンパクト版>プログレッシブ英和中辞典』(小学館、1月、第2版) 1 厚遇、歓待 2 (新思想などの) 理解、受容 3 温かくもてなす心、歓待の精神 (pp.899-900)	矢ヶ崎誠治監修『ポケット版外来語新語辞典』(成美堂出版、6月) ホスピタリティー 歓待:もてなし(p.413)	『観光ホスピタリティーモデル事業事例集 親切なおもてなし』(ぎょうせい北海道支社、3月) 総理府編『観光白書 平成5年版』(大蔵省印刷局、6月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「3 外国人旅行者の受入れ」 …外国人が一人歩きできる環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人とふれ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。 (p.72) 『日本ホスピタリティー研究会研究報告 HOSPITALITY』(創刊号、11月、日本ホスピタリティー研究会) 吉田千史「ホスピタリティーとサービスの起源について」 …ホスピタリティーには食べ物、飲み物が必ず関係していますが、ホスピタリティーがどこからどこへ提供されるかという Hospitality Giver と Hospitality Taker の関係を分析するのに、食物の分配方向を見ていくことで、その関係を探ること

				<p>がでけると考えられます。(p. 52)</p> <p>…自分達の共同体の外からいろいろな人達がやって来て、脅かしたりもすることがあります。一般に民族学では、ホスピタリティという外者歓待、異人歓待として捉えられています。これは狭義の意味のホスピタリティで、見知らぬよそ者、見知らぬ旅人を温かく迎える風習、習慣をいいます。古今東西、見知らぬ人をお客として自分の共同体または自分の家に迎えて親切に扱うという風習制度があります。(p. 53) ホスピタリティとは、贈与や互惠、互酬の原理によって成り立っているわけですが、これは経済交換の原理論からいえば大きな無駄をしていることとなります。ところが、一見無駄な消費に思えるものであっても、お金では解決できないものとして、ホスピタリティは経済交換のパラダイムとは異なった次元で位置して機能している。(p. 54)</p>
1994	『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「1994 外来語・略語年鑑 マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー	小学館ランダムハウス英和大辞典第二版編集員会編『ランダムハウス英和大辞典』(小学館、1月、第2版) (1) (客や他人	稲子和子『現代新語辞典』(梧桐書院、2月) 見出し語なし。 三省堂編修所編『官公庁のカタカナ語』(三省堂、4月)	服部勝人『新概念としてのホスピタリティ・マネジメントーポスト・サービス社会の指標』(学術選書、5月) 総理府編『観光白書平成6年版』(大蔵省

	<p>(hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1345) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 飛田茂雄、J.M.Varma 監修「外来語・略語」見出し語なし。 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1339)</p>	<p>の報酬を求めない) 厚遇、歓待、心のこもったサービス。▶観光・ホテル業界で宣伝に多用される(2) 温かく親切にもてなす心、歓待の精神。2 (新しい考え方などの) 受容力。進んで摂取すること。(p.1297) 中村匡克他『ブライト英和辞典』(小学館、1月) (人に対する) 親切なもてなし、歓待、厚遇 (p.611) 小西友七編集主幹『フレッシュジーニアス英和辞典』(大修館書店、4月、改訂版第3版) 親切なもてなし、歓待、厚遇 無料の食事付き宿泊 (p.681) 小西友七編集主幹『ジーニアス英和辞典』(大修館書店、4月、改訂版) 1 親切なもてなし、歓待、厚遇 2 ((英))無料の食事付き宿泊 (p.881) 松田徳一郎監修『リーダーズ・プラス』(研究社、6月) 見出し語なし。 川本茂雄他編</p>	<p>ホスピタリティー [hospitality] もてなし。歓待。厚遇。そのため情報提供体制を充実させ、外国人が国内を旅行する際の最大の障害である言語障壁の問題を緩和し、外国人が一人歩きできる環境を創出するとともに外国人旅行者が、日本人とふれあうことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。(p.492) ※欄外で「観光4」に指摘。 『観光白書1994』への指摘。 堀井令以知編『外来語語源辞典』(東京堂出版、6月) 見出し語なし。 稲子和夫『現代新語辞典』(梧桐書院、12月) 見出し語なし。 三省堂編修所編『コンサイスカタカナ語辞典』(三省堂、9月) ホスピタリティー [hospitality] <ラ hospitalis (客扱いのよ</p>	<p>印刷局、6月) 「第2章 国際観光の振興」のうち「3 外国人旅行者の受入れ」 …外国人が一人歩きできる環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人とふれ合うことのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。(p.59) ※これまでは「ホスピタリティー」であったが、ここから「ホスピタリティ」の表現となった。 名東孝二他編『ホスピタリティとフィランソロピー—産業社会の新しい潮流』(税務経理協会、9月) 奥住正道『外食産業最前線 ホスピタリティ時代のビジネス』(実教出版、11月)</p>
--	--	---	---	--

		『講談社英和中辞典』(講談社、11月) 1 歓待、手厚いもてなし。2 (pl.) 親切 3 好意的な受け入れ。(p.970)	い) 旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。 <現> (p.953) 川本茂雄監修／飯田隆昭他編『日本語になった外国語』(集英社、3月、第3版) ホスピタリティー [hospitality] 歓待。親切なもてなし。 (p.882)	
1995	『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「1995 外来語・略語年鑑 マスコミに出る外来語・略語・総解説」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1353) 綜合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 見出し語なし。 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1339)		山田俊雄他編『新潮国語辞典—現代語・古語—』(新潮社、11月、第2版) 見出し語なし。 松村明監修／小学館『大辞泉』編集部編『大辞泉』(小学館、12月、第1版) ホスピタリティー [hospitality] 1 心のこもったもてなし。手厚いもてなし。歓待。また、歓待の精神。2 異人歓待。(p.243)	日本ホスピタリティー協会(1月) ※日本ホスピタリティー研究会より名称変更。 『観光事典』(社団法人日本観光協会、3月) 岡本伸之・山口祐司「ホスピタリティー hospitality」客人を暖かくもてなすこと、歓待、厚遇のこと。ラテン語で「手厚いもてなし」を意味した “hospitalis” が語源で、ホテル (hotel) やホスピタル (病院、hospital) も同じである。 ホスピタリティーの本質的な課題は、常にもてなしの相手であるお客の立場からもてなす側の在り方を考え、お客が事前に歓待した以上の満足を与えることができるよう実際に行動することである。 米国では、1980年代以降、ホスピタリ

			<p> ティ産業という用語が、ホテル産業、フードサービス産業、クラブ産業等を包する用語として用いられるようになった。ホスピタリティ産業が包含する各種事業活動の最大公約数的な機能は、料飲サービスにある。したがって、「ホスピタリティ産業のための会計学」などという教科書があれば、内容はホテル、レストラン、クラブなど、料飲サービスを含む各種事業に共通して使える会計学の教科書のことと考えればよい。 </p> <p> ホスピタリティ産業という用語が観光事業を含むとか、観光事業や観光産業という用語と互換性に用いられるとの解説もあるが、必ずしも一般的な解釈ではないように思われる。 </p> <p> (pp.147-148) 高橋美貴『近世・近代移行期における漁村・漁政史の研究』 授与大学名：東北大学／授与年月日：3月24日／博士(文学) ※「第二章「漁場ホスピタリティ」の歴史的展開」がある。「岩手県沿岸漁村では、既に近世段階から、漁場から上がる理系の一部が村内における備荒対策費や社会資本の整備費に投入され、村方のホスピ </p>
--	--	--	--

				<p>タリティー機能を資金面で支えていた。このような漁場の社会的機能（「漁場ホスピタリティー」）は近世・近代移行期を通して存続し続け、さらに明治期には行政村の収入源として一定の社会的機能を果たすようになっていく。」(p.76)</p> <p>※用語として使用されているものの、「受け入れた」といった意味合いで使用されている。</p> <p>服部勝人『新概念としてのホスピタリティ・マネジメント ポスト・サービス社会の指標』学術選書、4月、第2版</p> <p>総理府編『観光白書平成7年版』（大蔵省印刷局、6月）</p> <p>「ホスピタリティ」への言及はない。</p> <p>「今後の観光政策の基本的な方向について（答申第39号）（観光政策審議会、6月）では「ホスピタリティ」という表現はない。</p>
1996	<p>『現代用語の基礎知識』（1月）</p> <p>堀内克明「新聞・TVに出る外来語最新事典'96」</p> <p>ホスピタリティー（hospitality）客のもてなしのよいこと。(p.1458)</p> <p>総合社編『情報・知識 imidas』（集英社、1月）</p> <p>飛田茂雄、J・</p>	<p>竹林滋他編『カレッジライトハウス英和辞典』（研究社、1月）</p> <p>1 親切にもてなすこと、歓待、厚遇。 2（客に出す）食事、宿泊場所。(p.845)</p>	<p>旺文社編『カタカナ語。略語辞典[改訂新版]』（旺文社、1月）</p> <p>ホスピタリティー</p> <p>[hospitality]</p> <p>厚遇。もてなし。温かくもてなすこと。もてなしぶり。(p.623)</p>	<p>日本ホスピタリティー学会（1月）</p> <p>福永昭・鈴木豊編著『ホスピタリティー産業論 顧客満足管理の時代を迎えて』（中央経済社、5月）</p> <p>総理府編『観光白書平成8年版』（大蔵省印刷局、7月）</p> <p>「ホスピタリティ」への言及はない。</p> <p>服部勝人『ホスピタ</p>

	<p>M・Vardama「外来語・略語」 ホスピタリティーの見出し語はないが以下がある。 ホスピタリティーインダストリー [hospitality industry] 接客産業。ホテルや料理店などの接客業。(p.1367) 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1339)</p>		<p>リティ・マネジメント：ポスト・サービス社会の経営』(丸善、11月) ホスピタリティというものを今後の社会体制の中で根底を成す概念として捉え、筆者の観点から次のような定義を試みた。 「人類が生命の尊敬を前提とした創造的進化を遂げるための、個々の共同体もしくは国家の枠を超えた広い社会における多元的共創関係を成立させる相互容認、相互理解、相互信頼、相互扶助、相互依存、相互発展の六つの相互性の原理を基盤とした基本的社会倫理である。」 (p.69) ホスピタリティはホスピタリティ文化およびホスピタリティ精神を基盤とした諸要素群、つまり人的要素群、物的要素群、創造的要素群、機能的要素群から構成されているのである。(p.71) しかし、各要素を部分的に再考するだけでは有効的な成果は得られないが、ホスピタリティ文化やホスピタリティ精神を踏まえて、四つの要素群を相互に均衡状態を維持しながら融合するマネジメントが存在した時に、初めて真の「ホスピタ</p>
--	---	--	---

				リテイ」は生まれるのである。(p.72)
1997	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「新聞・TVに出る外来語最新事典'97」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1434) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 見出し語なし。 飛田茂雄、J・M・Vardama 編『カタカナ語・欧文略語辞典』(imidas 別冊付録、1月) ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。② 受容力。柔軟性。(p.285) 『朝日現代用語知識恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1355)</p>	<p>堀内克明・石山宏一編『ポケットプログレッシブ英和・和英辞典』(小学館、3月) 厚遇、歓待、親切なもてなし (p.268) 山岸勝榮編者代表『スーパー・アンカー英和辞典』(学習研究社、3月) (客に対する)親切なもてなし、歓待。 英語文化のキーワード (1)キリスト教徒には hospitality, hospitable という語から、「旅人をもてなすことを忘れてはなりません」「不平を言わずにもてなし合いなさい」といった新訳聖書のことばを思い出す人が多い。したがって、意識しているとしないとにかかわらず、彼らにとっての「もてなし」とは神の命令を実践することにもつながる。(2)一般に英米ではレストランなど家の外でもてなすよりも家庭に客を招いてもてなすほうが普通と</p>	<p>西谷真雅子「Hospitalityの諸相」(『英米言語文化研究』第45号、大阪府立大学英語言語文化研究会、3月) フィリップ・コトラー、ジェームス・マーキンス、ジョンボーエン/ホスピタリティー・ビジネス研究会訳『ホスピタリティーと観光のマーケティング』(東海大学出版会、4月) ※ Philip Kotler, James Makens, and John Bowen. <i>Marketing for Hospitality and Tourism</i>. (Prentice Hall)の翻訳。 総理府編『観光白書平成9年版』(大蔵省印刷局、6月) 「ホスピタリティー」への言及はない。 日本ホスピタリティー・マネジメント学会(10月) ※日本ホスピタリティー学会より名称変更。 力石寛夫『ホスピタリティーサービスの原点』(商業界、11月) “ホスピタリティー”つまり“物事を心、気持ちで受け止め、心、気持ちから行動すること”です。(p.51) ホスピタリティーこそがサービスの原点であると同時に人間</p>	

		<p>考えられている。(p.746) 竹林滋他編『ライトハウス英和辞典』(研究社) 親切にもてなすこと、歓待、厚遇 (p.685)</p>		<p>社会で一番大切な豊かさ、温かさ、楽しさ、明るさ、くつろぎ、和やかさといった環境づくりの基本となるものなのです。</p> <p>ちなみに、英語には、ホスピタリティという言葉から生まれた言葉がたくさんあります。皆さんもすぐに思い浮かぶのは、ホスピタル=病院でしょう。つまり、病に倒れた人や気づいた人をいやす場所という意味です。同じように、旅の疲れをいやしてくれるホテルの語源も、ホスピタリティです。</p> <p>さらに、過程にお客さまを迎える際、招く側の主人をホスト、奥さまをホステスといいます。この言葉もホスピタリティからきています。家庭の温かさをプロデュースする人という意味なのです。</p> <p>こうした語源を調べてみても、ホスピタリティが心、気持ち、思いやりにかかわる重要な言葉だということがよくわかるでしょう。(pp.57-58)</p>
1998	『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「巻末別編 外来語・略語 1998」 ホスピタリティー		三省堂編修所編『官公庁のカタカナ語』(三省堂、3月、第2版) ホスピタリティ	長野冬季オリンピック(2月7日~22日) 立教大学観光学部(4月) ※日本で最初の観光学部

	<p>(hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1435) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 見出し語なし 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、 歓待。(p.1355)</p>		<p>一 [hospitality] もてなし。 歓待。厚遇。そのため情報提供体制を充実させ、外国人が国内を旅行する際の最大の障害である言語障壁の問題を緩和し、外国人が一人歩きできる環境を創出するとともに、外国人旅行者が、日本人とふれあうのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。 (p.579) ※欄外で「観光4」に指摘。 『観光白書1994』への指摘。 新村出編『広辞苑』(岩波書店、11月、第5版)では見出し語なし。 松村明監修/小学館『大辞泉』編集部編『大辞泉』(小学館、11月、第1版増補・新装版) ホスピタリティー【hospitality】1 心のこもったもてなし。手厚いもてなし。 歓待。また、 歓待の精神。2 異人 歓待。(p.2438)</p>	<p>総理府編『観光白書平成10年版』(大蔵省印刷局、6月) 「ホスピタリティ」への言及はない。</p>
--	---	--	--	---

1999	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「外来語カタカナ語 マスコミに出る外来語・略語辞典」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1392) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 見出し語なし 信達郎・小浦博編、J・M・Vardama 編『最新英語雑学辞典』(imidas 別冊付録、1月) hospitality industry 経 ホテルやレストランなどの接客業。接客産業。(p.818) 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1339)</p>		<p>松村明編『大辞林』三省堂、10月、第2版) ホスピタリティー 【hospitality】 訪問者を丁重にもてなすこと。(p.2379)</p>	<p>総理府編『観光白書平成11年版』(大蔵省印刷局、1月) 「ホスピタリティ」への言及ない。 平野文彦編著『ホスピタリティ・ビジネス』(税務経理協会、3月) 浅野浩子・菊地史子『ホスピタリティの表現研究 ビジネス・マナー編』(創成社、4月) 山上徹『ホスピタリティ・観光産業論』(白桃書房、4月) 浅野房世・三宅祥介『安らぎと緑の公園づくり ヒーリング・ランドスケープとホスピタリティ』(鹿島出版会、7月) 『批評空間』(2期第23号、太田出版、10月) Jacques Derrida/安川慶治訳「歓待・正義・責任—ジャック・デリダとの対話」(pp.192-209) ジャック・デリダ、アンヌ・デュフールマンテル/廣瀬浩司訳『歓待について—パリのゼミナールの記録』(産業図書、12月)</p>
2000	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「外来語カタカナ語 マスコミに出る外来語・略語辞典」</p>			<p>高田都悠子『スチュワーデスがふれた世界のホスピタリティ』(高田都悠子、1月) 内田武之『行きやす</p>

	<p>ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1364) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 見出し語なし 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(pp.1323-1324)</p>		<p>い買しやすい店舗 ホスピタリティーを実現する』(商業界、1月) 古閑博美・斉藤茂子・中谷千尋『看護とホスピタリティー』(ブレーン出版、1月) 総理府編『観光白書平成12年版』(大蔵省印刷局、6月) 「ホスピタリティー」への言及ない。 小山政彦『eビジネスホスピタリティー 電腦商法の儲かる方程式』(ビジネス社、9月) 平井誠也編著『思いやりとホスピタリティーの心理学』(北大路書房、12月) 「二一世紀初頭における観光振興方策(観光政策審議会諮問第43号)(観光政策審議会、12月) 「三 近年における観光をめぐる現状及び課題」の中で「国民の日常的、基本的マナーやホスピタリティー意識の不十分さ」(1)</p>
2001	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 堀内克明「最新カタカナ語・外来語／略語辞典」 ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1401) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 見出し語なし</p>	<p>木原研三編者代表『グランドセンチュリー英和辞典 CD 付き』(三省堂、1月) (客や外来者に対する)手厚いもてなし、歓待(p.662) 小西友七・南出康世編『ジーニアス英和大辞典』(大修館書</p>	<p>山上徹「ホスピタリティー (hospitality)」(山上徹・堀野正人編『ホスピタリティー・観光事典』白桃書房、3月) 語源的には、ラテン語の hospes であり、hospitalis などから派生している。それゆえにホテル (hotel) および病院 (hospital) と語源的に</p>

	<p>『朝日現代用語知恵蔵』（朝日新聞社、1月） 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。 (pp.1220-1221)</p>	<p>店、4月) 1 親切なもてなし。歓待。厚遇。2 (英) 無料の食事付き宿泊。(p.1064)</p>	<p>共通である。端的には、客人を保護するという意味が含まれている。日本語におけるホスピタリティーの同義の用語は、「神仏のおとりなし」である「恩賜」、「看護」、「庇護」、「歓待」などが考えられる。新約聖書では、「旅人をもてなすこと」として用いられている。とくにイエスの「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」(マタイによる福音書第 22 章 39 節)という根本思想のように相手の立場になって「手厚くもてなす」ことを意味する。ホスピタリティーの概念は、お互いに存在意義や価値を理解し、相手を認め、信頼し、助け合う精神をいう。広義には、人間生命の尊厳と社会の公正ばかりでなく、地球にやさしいためにも自然環境への配慮を含むべきである。しかし一般的には、人間の立場から国家、言語、宗教、文化の相違を越えた全世界の人類・自然の共生と思いやりの精神を意味する。さらに売買という狭義の立場からは、売手が少々犠牲になって買手優先のサービス提供をするという考え方というよりも、どちらかといえ</p>
--	---	---	--

			<p>ば、売手と買手は対等の立場、相互理解、相互信頼関係にあることをいう。売手も楽しく、買手も楽しい、すなわち「お互い思いやり」があるということである。買手の満足がそのサービスを提供する売手の接客要員と満足を共有するというように買手の満足を売手の満足へと転化し、買手の喜びを売手の喜びにするという相互補完的な関係を重要視する用語といえよう。まずもてなしの相手である買手の立場を配慮しつつ、売『のシーズを最大限に活用し、手厚いもてなしによってお互いに満足するという共存共栄の関係をいう。しかしサービスという場合、売手側の立場を犠牲にした、やや一方的な顧客優先・優位という意味が含まれている。そのようなサービスには、必然的に対価が伴うことになるが、ホスピタリティという場合、客と接客要員とは、感情的なつながり、信頼溢れる関係によって一味同心になるというかなり粘着的なコンセプトが含まれている。企業間競争に勝ち抜くためには、顧客との接点において顧客に感動を与える極めて質的にも高</p>
--	--	--	--

				<p>い満足度としての気付け、心配りというホスピタリティがマーケティング戦略上、非常に重要になってきている。</p> <p>(pp.2-3)</p> <p>日本ホスピタリティ推進協会 (3月)</p> <p>※日本ホスピタリティ協会より名称変更</p> <p>浦郷義郎『真実の15秒で観客をつかむーホスピタリティ・マインドに徹する経営』(光文社、12月)</p> <p>施設 (あるいは人) の提供側が利用者に喜びを与え、それを自分たちの喜びとしている。両者はいつも平等の立場と関係にある。また関係は「ヨコの関係」である。(pp.91-92)</p> <p>国土交通省編『観光白書 平成13年版』(財務省印刷局、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p>
2002	<p>『現代用語の基礎知識』(1月)</p> <p>有馬賢治「マーケティング問題用語の解説」「ホスピタリティー [hospitality]</p> <p>暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所⇒来客用の大</p>	<p>竹林滋編『研究者新英和大辞典』(研究社、3月)</p> <p>n. 1 旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。厚遇。2 (新思想などに対する) 受容力。理解力。adj. (モーターやホテルなどの) 部屋か接待用の。(p.1188)</p>		<p>日本観光ホスピタリティ教育学会 (3月)</p> <p>中村清・山口祐司編『ホスピタリティ・マネジメントーサービス競争力を高める理論とケーススタディ』(生産性出版、6月)</p> <p>国土交通省編『観光白書 平成14年版』(財務省印刷局、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p>

<p>きな家) に由来している。マーケティング分野では、特に旅行、ホテルなどの観光マーケティングの基本用語として定着している。どんなに設備が豪華な施設でも、顧客に対して心のこもった対応が行われなければ、顧客満足は形成されないという接客の基本的発想が背景にある。消費者はサービス商品を、提供される細かな要素の集合としてではなく、まとまりのある一体のものとして評価する傾向がある。例えば、ホテルならば接客、部屋の掃除、食事、パブリックスペースの快適さなどを一つのまとまりといして滞在したホテルの評価を下すわけである。したがって、すみずみまで配慮の行き届いたもてなしが顧客満足には必要とされてくる。観光業にかぎらずホスピタリティーはこのようなトータル・サービスを志向する企業の基本理念として位置づけることが可能である。(p.418)</p> <p>堀内克明「最新カタカナ語・外来語／略語辞典」</p>			
---	--	--	--

	<p>ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1449) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 見出し語なし。 信達郎、J・M・Vardam 監修『世界を変える IT (情報技術) を展望 IT 用語カタカナ・略語辞典』(imidas 付録、1月) ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。② 受容力。柔軟性。(p.325) 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1318)</p>			
2003	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング 問題用語の解説」「ホスピタリティー [hospitality] 暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所⇒来客用の大きな家) に由来し</p>			<p>藤沢真理子『巡礼接待思想ホスピタリティーを活かしたホスピスボランティア』 授与大学名：大阪府立大学／授与年月日：3月31日／博士(社会福祉学) フィリップ・コトラー、ジョン・ボーエン／平林祥訳『コトラーのホスピタリティー&ツーリズム・マーケティング』(ピアソン・エデュケーション、12月) 古閑博美『ホスピタリティー概論』(学文</p>

	<p>ている。どんなに設備が豪華な施設でも、顧客に対して心のこもった対応が行われなければ、顧客満足は形成されないという接客の基本的発想が背景にある。ホスピタリティーはこのようなトータル・サービスを志向する企業で重視されている。</p> <p>(p.353)</p> <p>堀内克明「最新カタカナ語・外来語／略語辞典」</p> <p>ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1348)</p> <p>総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月)</p> <p>見出し語なし。</p> <p>『朝日現代用語知識恵蔵』(朝日新聞社、1月)</p> <p>信達郎、J・M・Vardam 監修「カタカナ語・欧文略語」</p> <p>ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。③ 受容力。柔軟性。</p> <p>(p.1278)</p>			<p>社、4月)</p> <p>ホスピタリティーは人のぬくもりを感じさせる行為だが、便利な機材や用具の開発と発明が、快適なホスピタリティーの実現に貢献していることは疑う余地がない。しかし、ホスピタリティーは人の行為が本来的なもので、その理念とともに行為する個々人の意志や感情の働きが無視できない。(p.11)</p> <p>ホスピタリティーは、一般に「他者をあたたかくむかえもてなす」意のあることばとして知られる。もてなす(持て成す)行為は、相手を受け入れることであり、引き受けたり迎え入れたりすることからはじまる。</p> <p>(pp.11-12)</p> <p>…ホスピタリティーは普遍的行為に位置づけられる。行為を支える信仰や信条、思想的背景はそれぞれ異なるといえども、ホスピタリティーは異種の要素を内包している人同士の出会いのなかで起こる触れ合い行動であり、発展的人間関係を創造する行為といえる。</p> <p>(p.14)</p> <p>ホスピタリティーは、歴史的・語法的には、他者と関わるさいに派生する人間の行為に分類され、なかでも相手の立場</p>
--	---	--	--	--

				<p>に立って配慮することを具体的な行為で表現する「思いやりの行為」とみなされてきた。欧米社会では、キリスト教の精神である隣人愛の理念を具現化する行為として知られる。</p> <p>どのような行為にもその行為をうながす意識的・無意識的な動機があるとされるが、宗教的視点から仏教の慈悲や布施の心、民俗学調査が報告する各地の人びとの振舞いにみる行動様式、文化人類学的視点による異文化遭遇や異文化交流を視野に入れて考察することがホスピタリティ</p> <p>への理解を深める手がかりとなるであろう。(p.16)</p> <p>異種の要素を内包している人間同士の出会いの中で起こるふれあい行動であり、発展的人間関係を創造する行為(p.26)</p> <p>機能、関係、行為・行動、倫理、精神(p.27)</p> <p>国土交通省編『観光白書 平成15年版』(国立印刷局、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p>
2004	『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング 問題用語の解説」「ホスピタリティー [hospitality]			<p>ホスピタリティ・ビジネス研究会編『ホスピタリティ・マーケティング用語事典』(アイ・ケイコーポレーション、4月)</p> <p>服部勝人『ホスピタ</p>

<p>暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital（病院、慈善施設）からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia（主人が客を接待する場所⇒来客用の大きな家）に由来している。どんなに設備が豪華な施設でも、顧客に対して心のこもった対応が行われなければ、顧客満足は形成されないという接客の基本的発想が背景にある。ホスピタリティーはこのようなトータル・サービスを志向する企業で重視されている。</p> <p>(p.335)</p> <p>堀内克明「最新カタカナ語・外来語／略語辞典」</p> <p>ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1308)</p> <p>綜合社編『情報・知識 imidās』(集英社、1月)</p> <p>今村仁司「現代思想」のうち</p> <p>ホスピタリティー [hospitality]</p> <p>歓待と訳す。近代以前の諸社会には異邦人と旅人を、その身分や資格を問わないで、食事を提供し、ときには路銀を渡してねぎらう慣行が長く</p>			<p>リティ学原論』(内外出版、5月)</p> <p>服部勝人『ホスピタリティ・マネジメント入門』(丸善出版、6月)</p> <p>国土交通省編『観光白書 平成16年版』(国立印刷局、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p>
--	--	--	---

<p>続いてきた。近代に入ると、異邦人歓待は国際法的意味を持ちはじめ、外国人の訪問権となる。異邦人は訪問する国で不法な行為をしないかぎり滞在することができる。さらにそれは政治的亡命の権利ともなった。政治的であろうと経済的であろうと、莫大な数の難民が発生している現在では、身分と資格を問わないで難民を受け入れることをホスピタリティーという。昔の自然発生的慣習はいまや不可欠の国際法的意味を持ちはじめているし、それなしには難民を救済する道はない。他方では、ホスピタリティーは現代的人間の倫理的原理への昇格しつつある。平和で安定的な社会を維持するためには、個々人がホスピタルな精神をもって他者を迎える鍛錬が必要である。歓待の精神をもつ人間こそが、真実の「文明人」といわれる時代になった。社会や国家もまたホスピタルな制度を確立しなくてはならない。ホスピタリティーは国際政治の</p>			
---	--	--	--

	<p>基本項目になるだろう。(p.1259) 信達郎、J・M・Vardama 編「カタカナ語・欧文略語」 ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。②受容力。柔軟性。(p.1458) 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・カタカナ語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1223)</p>			
2005	<p>『現代用語の基礎知識』(1月)以後、サイズが縮小化 有馬賢治「マーケティングの基礎語」「ホスピタリティー [hospitality] 暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所=来客用の大きな家) に由来している。消費者はサービス商品を提供される細かな要素の集合としてではなく、まとまりのある一体のもの</p>		<p>三省堂編修所編『コンサイスカタカナ語辞典』(三省堂、10月、第3版) ホスピタリティー [hospitality] <ラ hospitalis (客扱いのよい) 旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。> 現 (p.1019) 新星出版社編『カタカナ語新辞典』(新星社、12月、改訂新版) ホスピタリティー [hospitality] 心温まる親切なもてなし。歓待。(p.478)</p>	<p>愛・地球博、愛知万博(3月25日~9月25日) 山上徹『ホスピタリティー・マネジメント論』(白桃書房、3月) ホスピタリティーとは、「ゲスト、ビジター、外国人に対し、最適で、最良な歓待やもてなしがなされることを意味する。ホスピタリティーという用語は、ホスピス(hospice)から派生し、それは中世の旅人や巡礼者のための宿泊施設であった。ホスピスは、また現在の病院の最初の形態であり、そしてホスピタルとも関係している。その後、ホスピタリティーに、ホテル、レストランが</p>

<p>として評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.325)</p> <p>堀内克明・大森良子「カタカナ・外来語／略語辞典」ホスピタリティー (hospitality) 客のもてなしのよいこと。(p.1308)</p> <p>総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月)</p> <p>今村仁司「現代思想」のうち倫理 ethic の一部生命と財産が課題になるのではなく、他人との「正当な」関係を構築することが倫理内容である。弱いものを助けること、異邦人を歓待すること、相互に扶助すること、要するにホスピタリティー(あるがままに他人を迎えること)こそ現代の倫理である。(p.1204)</p> <p>ホスピタリティー hospitality 歓待と訳す。近代以前の諸社会には異邦人と旅人を、</p>			<p>含められるになった¹⁾」。</p> <p>換言すれば、ホスピタリティーと類似して使用されるホスピスの語源は、ラテン語の hopes であり、Hospitalis などに由来するが、「ホスピスとは、中世における旅人や巡礼者のための休憩の館であり、また今日、初期の治療施設と称されるものに由来し、そして明らかにホスピタルとも関連する用語である²⁾」。</p> <p>つまりホテル (hotel) および病院 (hospital) と同義語となり、客を温かく迎え、手厚くもてなす場所を意味する。(pp.1-2)</p> <p>1) T.Powers. Introduction to the Hospitality Industry. (John Wiley & Sons, 1988), p.2.</p> <p>2) Ibid., p.4.</p> <p>ところで、ホスピタリティーに対応する日本語の用語とは、どのようなものであるだろうか。日本語では一般的に、名詞が「もてなし」であり、動詞は「もてなす」ということになる。その語意は、教養・性格などによって培われた「ふるまい」、「饗する」、「身のこなし方、立ち振舞い」であり、人に対する態度・待遇などを意味する。昔か</p>
---	--	--	--

<p>その身分や資格を問わないで、食事を提供し、ときには路銀を渡してねぎらう慣行が長く続いてきた。近代に入ると、異邦人歓待は国際法的意味を持ちはじめ、外国人の訪問権となる。異邦人は訪問する国で不法な行為をしないかぎり滞在することができる。さらにそれは政治的亡命の権利ともなった。政治的であろうと経済的であろうと、莫大な数の難民が発生している現在では、身分と資格を問わないで難民を受け入れることをホスピタリティーという。昔の自然発生的慣習はいまや不可欠の国際法的意味を持ちはじめているし、それなしには難民を救済する道はない。他方では、ホスピタリティーは現代的人間の倫理的原理への昇格しつつある。</p> <p>(p.1205)</p> <p>信達郎、J・M・Vardama 編「カタカナ語・欧文略語」</p> <p>ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。② 受容力。柔軟性。</p> <p>(p.1359)</p>			<p>ら「立ち振舞いは目から入る言葉」とも称され、その気持がそのまま態度に出て、相手に言葉で話したように伝わる。もてなしとは招待し、食事や賜物を供してコミュニケーションを密にすることを意味する。ご馳走などのもてなしから誕生した用語には、正客の相手になって、一緒にもてなしを受けることを表す「相棒」がある。茶道の懐石料理の際、酒肴（八寸）をもってする献酬を「千鳥の盃」と称するが、亭主が客へ献酬する盃を1つさすことを一献と言うし、また天子・貴人からご馳走を賜ることを賜饗などと称している。さらにそれらと同義な他の用語としては、「恩賜」、「看護」、「庇護」、「歓待」などがある。</p> <p>(pp.2-3)</p> <p>明海大学ホスピタリティー・ツーリズム学部ホスピタリティー・ツーリズム学科（4月）</p> <p>熊本学園大学商学部ホスピタリティー・マネジメント学科（4月）</p> <p>山内昶「ホスピタリティーの語議論」（『LIBRARY iichiko』 SPRING No.86、河北秀也、4月）</p>
---	--	--	--

	<p>『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・カタカナ語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。(p.1223)</p>			<p>“Hospitality” という概念は、じつは民族学の《重力の法則》(レヴィ=ストロース、1957、p.180)といわれる「互換性 (reciprocity、相互性とも訳す)」と深い関係があつて、「贈与 (gift)」や「気前のよさ (generosity)」並ぶ人類社会の鍵=概念に他ならない。(p.6-7) 高畑吉宏『ホスピタリティマインド お客様の笑顔を生きがいにするヒューマンスキル』(成甲書房、5月) 国土交通省観光庁編『観光白書 平成17年版』(国立印刷局、7月) 「ホスピタリティ」への言及ない。 熊本学園大学ホスピタリティ・マネジメント学科企画編『ホスピタリティの時代—熊本学園大学オープンカレッジ講演録』(熊本日日新聞情報文化センター、8月)</p>
2006	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティングの基礎語」「ホスピタリティー (hospitality) 暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとはhospital (病院、慈善施設) からの</p>		<p>小学館国語辞典編集部編『精選版日本国語大辞典』(第3巻、小学館、3月) ホスピタリティー 心のこもったもてなし。手厚いもてなし。歓待。また歓待の精神。(p.634)</p>	<p>亀川雅人編『ビジネススクリエーターとホスピタリティ』(創成社、1月) 桂真弓「サロンのホスピタリティとビジネススクリエーター」 「ホスピタリティ」は「サービス」の上位概念として捉えられ、顧客の欲求に見合う等価価値を</p>

<p>派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所=来客用の大きな家) に由来している。消費者はサービス商品を提供される細かな要素の集合としてではなく、まとまりのある一体のものとして評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p. 645)</p> <p>堀内克明・大森良子「最新カタカナ・略語辞典」</p> <p>ホスピタリティー (hospitality)</p> <p>客のもてなしのよいこと。(p. 1308)</p> <p>総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月)</p> <p>麻生博之・今村仁司「哲学/現代思想」のうち</p> <p>倫理 ethic の一部</p> <p>こうして現代倫理思想は、一見古そうに見える贈与原理を倫理内奥にしようとしている。弱いものを助ける</p>		<p>総合社編『イミダス編 imidas 現代人のカタカナ語欧文略語辞典』(集英社、4月)</p> <p>ホスピタリティー [hospitality]</p> <p>① 親切なもてなし。② 受容力。柔軟性。(p.555)</p> <p>松村明編『大辞林』三省堂、10月、第3版)</p> <p>ホスピタリティー</p> <p>【hospitality】</p> <p>丁寧なもてなし。また、もなしの心。(p.2379)</p>	<p>「サービス」の領域であるとする、「ホスピタリティ」はこれに高質感、高級感を与える付加価値を含んだ領域である。つまり、ホスピタリティ常にサービスを内包する。(p.152)</p> <p>峰岸智行「製造業における日本文化とホスピタリティ」</p> <p>ホスピタリティとは、思いやり、心遣い、親切心、心からのおもてなしのことであり、あらゆる物事を心や気持ちで受け止め、心や気持ちから行動することである。また、ホスピタリティは、サービスの原点であると同時に、人間社会で一番大切な豊かさ、温かさ、楽しさ、明るさ、くつろぎ、和やかさといった環境づくりの基本となるものである。(p.200)</p> <p>林田正光『ホスピタリティの教科書』(1月)</p> <p>ホスピタリティとは「心のこもったおもてない」であり、ホスピタリティを身につけるには、試行錯誤を経て自分流をみつけることが必要と、定義しました。</p> <p>もちろん、これはあくまでも私の定義です。(p. 28)</p> <p>なぜ、はっきりと定義したかという点、日本ではホスピタリティが「優しく</p>
--	--	---	---

	<p>こと、異邦人を歓待すること、相互に扶助すること、要するにホスピタリティー（あるがままに他人を迎えること）こそ現代の倫理である。 (p. 1033)</p> <p>ホスピタリティー hospitality 歓待と訳す。近代以前の諸社会には異邦人と旅人を、その身分や資格を問わないで、食事を提供し、ときには路銀を渡してねぎらう慣行が長く続いてきた。近代に入ると、異邦人歓待は国際法的意味を持ち始め、外国人の訪問権となる。異邦人は訪問する国で不法な行為をしないかぎり滞在することが許される。それは政治的亡命の権利ともなった。政治的であろうと経済的であろうと、莫大な数の難民が発生している現在では、身分と資格を問わないで難民を受け入れることをホスピタリティーという。昔の自然発生的慣習はいまや不可欠の国際法的意味を持ちはじめているし、それなしには難民を救済する道はない。 (p. 1033)</p> <p>信達郎、J・M・</p>			<p>接する」というような曖昧な意味で語られていることが多いからです。「そうか、お客様には優しく接すればいいんだ」と、表面上の意味だけ理解されると困るからです。</p> <p>欧米でいるホスピタリティーは、主に三つの要素が挙げられます。</p> <p>① Safety 安全であること ② Courtesy 心くばりがあること ③ Amenity 快適であること (pp.28-29)</p> <p>服部勝人『ホスピタリティー・マネジメント学原論 新概念としてのフレームワーク』（丸善出版、1月）</p> <p>五十嵐元一『マーケティングにおけるホスピタリティーの機能と役割に関する研究』授与大学名：北海学園大学／授与年月日：3月31日／博士（経営学） 大阪観光大学（4月） ※大阪明浄大学の名称変更 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティー学科（4月） 国土交通省観光庁編『観光白書 平成18年版』（国立印刷局、8月） 「ホスピタリティー」への言及ない。 山本哲士『ホスピタリティー原論 哲学と</p>
--	--	--	--	--

	<p>Vardama 編「カタカナ語・欧文略語」 ホスピタリティー [hospitality] ①歓待。親切なもてなし。②受容力。柔軟性。 (p. 1289) 『朝日現代用語知恵蔵』(朝日新聞社、1月) 河合伸「外来語・カタカナ語・略語」 ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。 (p. 1206)</p>		<p>経済の新設計』(新曜社、11月) 『インド=ヨーロッパ諸制度語彙集』のなかで、エミール・バンヴェニストは「ホスピタリテイ」を「経済」の稿の中であつかっている。「贈与・交換」と「義務」の間に、おスピタリテイはおかれている。 Hospes とは「客をもてなす主人」、そして hostis は「敵」を意味する。「好ましい他所者→客人」であり、「敵対する他所者→敵」という《他所者、敵、客人》が、これらの関係を示している。しかも、hostis はたんなる他所者ではなく、ローマ市民たちと同等の権利を認められた他所者である。そこから、「互酬関係にある者」が hostis の意味になる。 ジャック・デリダは『ホスピタリテイについて』の書のなかで、この hostis に着目して、ホスピタリテイが、敵をむかえいれる点をとくに強調している。つまり、なぜ敵かという、主人がもっていないもの、(非在)をもちこむため、主人の権威なりパワーを危うくさせるとのことだ。したがって、訪れた者は、戸の前で「わたしは主</p>
--	--	--	--

			<p>人を殺しません」と宣して入ってくる。うけいれる方は、その宣誓を信じて、そのかわり歓待するということだ。</p> <p>hostilité とは、「敵意」である。そして hospitalité は「敵意の歓待」を意味する。Hosti-pet とは、「すぐれて異人歓待を具現する者」である。つまり、異なる言語をもち、わからない言葉話す人、異質な文化や情報をもちこむ人である。</p> <p>ホスピタリティで、本質的に大事なことは、「友」や「知人」を迎え入れることではない。「敵」「異人」「他所者」を迎え入れることなのだ。(p.243)</p> <p>ホスピタリティの最も基本は。ひとりひとりによって対応が違うということである。人ひとりひとりの個性があり、生活の仕方が違うように、相手への対応は替わってしかるべきである。何を欲しているか、何をして欲しいのかは人によって、また正確には場によって違ってくる。こんな当たり前のことがなされないのは、それをいちいちやっていたなら、煩雑になり効率がわるくなるとみなされているからだ。(p.357)</p>
--	--	--	--

<p>2007</p>	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティングの基礎語」「ホスピタリティー」 (hospitality) 暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所=来客用の大きな家) に由来している。消費者はサービス商品を提供される細かな要素の集合としてではなく、まとまりのある一体のものとして評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.645) 総合社編『情報・知識 imidas』(集英社、1月) 麻生博之・今村仁司「哲学/現代思想」のうち 倫理 ethic の一部 こうして現代倫理思想は、一見古そうにみえる贈与原</p>			<p>観光立国推進基本法(1月)では「ホスピタリティー」という表現ない。 国土交通省編『観光白書 平成19年版』(昭和情報プロセス、7月) 「ホスピタリティー」への言及ない。 一般社団法人ホスピタリティー機構(7月) エイブラハム・ピザム監修/ピーター・ハリス他編/中村清・山口祐司日本語版監修『ホスピタリティマネジメント事典』(産業調査会事典出版センター、7月) ※以下の項目がある。 ホスピタリティ/ツーリズムの価格設定実務、ホスピタリティマネジメントmホスピタリティと観光への適用、ホスピタリティにおける市場細分化、ホスピタリティ流通用語と頭文字 ※「ホスピタリティ」の定義等はない。 鎌田實『超ホスピタリティー おもてなしのところが、あなたの人生を変える』(PHP 研究所、7月) 杉原淳子『ホスピタリティー・マーケティングー感性ゆたかなホテルを創る』(嵯峨野書院、9月) 前田勇編『現代観光とホスピタリティー</p>
-------------	--	--	--	---

	<p>理を倫理内奥にしようとしている。弱いものを助けること、異邦人を歓待すること、相互に扶助すること、要するにホスピタリティー（あるがままに他人を迎えること）こそ、現代の倫理である。</p> <p>(p.1018)</p> <p>ホスピタリティー 見出し語なし。</p> <p>信達郎、J・M・Vardama 編「カタカナ語・欧文略語」</p> <p>ホスピタリティー [hospitality] ① 歓待。親切なもてなし。② 受容力。柔軟性。</p> <p>(p.1288)</p> <p>以降は休刊となり、インターネット百科辞典として継続。</p> <p>『朝日現代用語知恵蔵』（朝日新聞社、1月）</p> <p>河合伸「外来語・カタカナ語・略語」</p> <p>ホスピタリティー [hospitality] もてなし、歓待。</p> <p>(p.1144)</p> <p>以降はインターネットの kotobank 中の朝日現代用語知恵蔵 mini として継続。</p>		<p>サービス理論からのアプローチ』（学文社、11月）</p> <p>近藤隆雄『サービス・マネジメント入門—ものづくりから価値づくりの視点へ—』（生産性出版、12月、第3版）</p> <p>日本独特のホスピタリティー概念</p> <p>わが国にサービスを扱った経営書や専門書でしばしば取り上げられるが、欧米ではほとんど登場しないが「ホスピタリティ」という言葉である。わが国では普通、「もてなしの態度や姿勢」の意味で使われる。ホスピタリティという言葉そのものは英語であり、「客への歓待」という意味でも普通使われる。しかし欧米のサービス・マネジメントの分野で、このホスピタリティそのものが研究対象として取り上げられたことはほとんどない。欧米では、ホスピタリティ・インダストリーとは、「飲む、食う、泊まる」を提供する飲食業とホテル業を意味し、ホスピタリティ・マネジメントとはそれらの産業の経営を意味するものとして定着している。</p> <p>(p.182)</p> <p>サービスは提供者と顧客との間の相互作用の活動であって、</p>
--	---	--	--

			<p>その活動が顧客に何らかの価値を付与するものだ。サービスが活動であるために、顧客はその結果としての価値とともに活動の過程も経験し、両方が顧客の評価の対象となって満足感に影響する。そこで過程品質という概念が成立する。一方、ホスピタリティは、サービス提供者の活動にあたって顧客に対する態度や姿勢のある特殊な型を意味するものと考えられる。したがって、過程品質が最も上位概念で、それを左右する可能性を持つ要因が態度変数である。そしてホスピタリティはその態度の一種という整理ができる。(p.183)</p> <p>ホスピタリティとは、繰り返せば、特定の価値を生産し、相手に渡していくというサービス過程における、提供者の、主に「態度」およびその基礎となる「姿勢」の問題である。本書でこれまで述べてきたのは、特定のサービス提供場面で、相手への「安心」、「自尊」、「公平」の原則を守った態度を取ることができれば、相手に対して、少なくとも良好な態度を保持しながら、価値生産部分のサービス提供ができ</p>
--	--	--	---

				<p>るということである。こうした考え方は、サービス提供の仕組みとして、ある品質水準のサービスを提供し続けるためには不可欠なことである。(p.104)</p>
2008	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング用語の解説」「ホスピタリティー [hospitality] 暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所=来客用の大きな家) に由来している。消費者はサービス商品を提供される細かな要素の集合としてではなく、まとまりのある一体のものとして評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.707) 『情報・知識&オピニオン imidas』</p>		<p>新村出編『広辞苑』(岩波書店、1月、第6版) ホスピタリティー 【hospitality】 客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持。(p.2588) 学研辞典編集部編『最新第七版カタカナ新語辞典』(学習研究社、11月) ホスピタリティー [hospitality] 厚遇。もてなし。</p>	<p>社団法人日本観光協会編『観光実践ハンドブック』(丸善、1月) 菅原由美子「(1) ホスピタリティーの意味」 “ホスピタリティー (hospitality)”とは、旅人などを歓待するという意味もち、ホテルの語源である“ホスピタル (hospital)”に由来するものである。 地域住民が観光にかかわるきっかけとなった代表的なものとしては、よそものに宿を提供する。いままでいうところの民泊があげられる。“民泊”という形でよそものに宿を提供し、その対価を得るうつにこれを生業(なりわい)とするものが現れ、これが今日のホテルのはじまりとなる。“ホテル”という言葉は、ラテン語の hospes (客人、お客の意) に由来するもので、紀元前10世紀の古代ギリシャ時代ごろから宿泊所という意味で使われるようになったといわれている。英語の“hotel”は、フラ</p>

	<p>(3月) 「時事用語事典」 のうち 今村仁司 ホスピタリティー [hospitality] 歓待と訳す。近代以前の諸社会には異邦人や旅人を、その身分や資格を問わないで、食事を提供し、ときには路銀を渡してねぎらう慣行が長く続いてきた。近代に入ると、異邦人歓待は国際法的意味を持ち始め、外国人の訪問権となる。異邦人は訪問する国で不法な行為をしないかぎり滞在することが許される。それは政治的亡命の権利ともなった。政治的であろうと、経済的であろうと、莫大な数の難民が発生している現在では、身分と資格を問わないで難民を受け入れることをホスピタリティーという。昔の自然発生的慣習はいまや不可欠の国際法的意味を持ち始めているし、それなしには難民を救済する道はない。 (インターネット)</p>		<p>ン語の“hostel”を語源とし、巡礼者や参拝者、旅人のための宿泊所を指すものとされていた。なお、この“hotel”は、後に巡礼者、病人、貧困者などの世話をする“hospital(病院)”と、宿場町や交通の要衝にある宿泊施設という現在の“hotel”とに分かれていったものである。</p> <p>この巡礼者のための宿泊所という意味では、日本の四国八十八か所めぐりにおける善根宿が該当する。この“善根宿”とは、四国八十八か所をめぐってお遍路さんに、民家を宿として提供するもので、“善根”とは、よい行いをすれば報われるという意味をもっている。四国では、お遍路さんに対してお茶やお菓子を振る舞う“お接待”ということも行われている。しかし、近年、四国人十八か所めぐりが団体ツアー等の対象として商業観光化が進むにつれ、こうしたホスピタリティーあふれる風習も次第に衰退の傾向にある。(pp.666-667) 山上徹『ホスピタリティー精神の深化—おもてなし文化の創造に向けて—』(法律文</p>
--	--	--	---

				<p> 化社、2月) 立教大学観光研究所 編『ホスピタリティ マネジメント』(有斐 閣アカデミア、2 月) 黄女玲『ホスピタリ ティ産業に対応する 日本語教育の試み：待 遇表現の理解と使用 を中心に』 授与大学名：大阪大 学／授与年月日：3 月25日／博士(言語 文化学) 神戸海星女子学院大 学現代人間学部観光 ホスピタリティ学科 (4月) 大阪学院大学経営学 部ホスピタリティ経 営学科(4月) 服部勝人『ホスピタ リティ学のすすめ』 (丸善、5月) ここでキーワードと なるのが、「対等とな るにふさわしい」で あるが、「ホスピタリ ティ(hospitality)」 の主要な語源である hospes は、ホスト (host)・ゲスト (guest)の両者の意 味を含み、ホストと ゲストが同一の立場 に立つ態度を常に保 つという意味があ る。(p.117) 国土交通省編『観光 白書 平成20年版』 (昭和情報プロセ ス、7月) 「ホスピタリティ」 への言及ない。 望月智行『いのち輝 くホスピタリティー 医療は究極のサービ </p>
--	--	--	--	--

				ス業』(サンクチュアリ出版、9月) 観光庁設立(10月)
2009	『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング用語の解説」「ホスピタリティー [hospitality] 暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所=来客用の大きな家) に由来している。消費者はサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.297)		西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編『岩波国語辞典』(岩波書店、11月、第7版) 見出し語なし。	「2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けて科学技術イノベーションの取り組みに関する輔フォース」(2月)のうち「大会ホスピタリティ(おもてなし)」として「スマートホスピタリティ」を提唱。 宮崎朋子『会員制スポーツ施設におけるホスピタリティ・サービスの概念モデル構築』授与大学名: 順天堂大学/授与年月日: 3月28日/博士(スポーツ健康科学) 亜細亜大学経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科(4月) 松蔭大学観光文化研究センター編『観光キーワード事典—観光文化への道標—』(学陽書房、4月) 白土健「ホスピタリティ」 一般に「おもてない(の心)」と訳されるが、相手をおもいやり、手厚くもてなすことをいう。その語源は、ラテン語のホスペス(異国の友・客人の保護者)で、その派生語が、ホスピタル、ホスピス、ホテル、ホスト、そしてホスピタリティー(hospitality)であ

			<p>る。サービスの語源が、相手に隷属する者を意味するラテン語から派生しているのに対し、ホスピタリティという言葉には「客を無条件で、全力で守る」という意味が込められている。</p> <p>観光産業にとって、このホスピタリティという概念は、欠かすことができない基本的な精神といえる。特に人的接客サービスを提供する宿泊業や運輸業、旅行業などの業種を総称してわが国では「ホスピタリティ産業」と呼んでいる。また最近では、観光以外の教育や医療・福祉の分野でもホスピタリティが重視されるようになってきている。</p> <p>ホスピタリティが重視されるようになったのは、日本の経済社会が大きく変化したことが作用している。戦後、わが国では高度経済成長期を経てバブル景気に至るまで、人々はもっぱら物質的豊かさを追求してきた。大量生産・大量消費が経済成長を後押しし、消費行動の個性化・差別化が叫ばれるようになると、新しいしょう商品が次々と生み出された。しかしバブル崩壊後の 21 世紀を目前</p>
--	--	--	---

				<p>に控えた 1990 年代に入り、物質的のみならず、精神的にも豊かで快適な社会環境の形成が叫ばれるようになってきた。このころからホテルなどの宿泊業を中心に「ホスピタリティ」という概念が広まった。利潤追求が前提の企業においても、企業の存在意義が、人の役に立つこと、人の幸せにつながることに、ますます重きが置かれるようになったのである。観光業界は、特に人を介したサービスの提供によって成り立っている業界である。例えば、東京ディズニーランド (TDL) では、「ホスピタリティ=おもてなし」を最大のコンセプトとした経営を行い、毎年多くの入場を獲得している。TDL のように、相手を理解し、相手の立場を思いやり、心配りができる人事の育成が重要である。経営の効率化を徹底的に進めたとしても、ホスピタリティ精神の感じられる商品やサービスを利用客に提供することは、経営の必須条件ともいえる。ホスピタリティの精神に欠ける企業は利用客からの支持や評価も得られず、存在意義を失ってしまうのである。ホスピタ</p>
--	--	--	--	--

			<p>リティこそが、国家や民族、宗教や文化といった枠をも越えた概念として、21世紀にふさわしいすべての観光産業の基本理念に据えられなければならない。</p> <p>(p.151)</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成21年版』(昭和情報プロセス、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p> <p>加藤 鉦，山本 哲士『ホスピタリティの正体』(ビジネス社、6月)</p> <p>世の中には「日本語化した外来語」が溢れかえっている。ここ数年でぐっと幅を利かせてきたのが「ホスピタリティ」である。</p> <p>残念ながら、このホスピタリティという言葉は、あまり正確に理解されずに一般化されつつある。市民権を得たかのように、ホスピタリティといえば、「おもてなし」「心配り」「サービスの向上」などと安易に使われている。</p> <p>確かに、ホスピタリティにあてはまる言葉を日本語で探しても、なかなかみつからない。</p> <p>わたしたちは、古典語や方言でホスピタリティに当たる言葉がないか、専門家や関係者たちに探し</p>
--	--	--	---

			<p>てもらっている。たとえば、久留米では、「ほとめき」という死語に近かった言葉が見つかって、いま「ほとめき」運動が住民の間で起きている。</p> <p>一方、西欧言語のもとになっていると言われるインド＝ヨーロッパ語でホスピタリティの語源を探ると、実に明快かつ根本的な意味が込められていることがわかる。</p> <p>Hospitality は Hospital (病院) といった Hos を含む言葉と深いかかわりがある。「Ho」は「人間」を、「sp」は特別なモノ」を意味する。だから、Hospitality は特別な人とモノとのつながり、つまり、「愛」そのものを指すともいえる。だが、実は、「敵の歓待」こそが Hospitality 本来の意味である。(p.1-2)</p> <p>エイブラハム・ピザム／中村清訳『ホスピタリティマネジメント事典』産業調査会事典出版センター、7月)</p> <p>※Abraham Pizam, editor. <i>International Encyclopedia of Hospitality Management</i>. (Elsevier, 2005)の翻訳。</p> <p>林田正光『リッツ・</p>
--	--	--	---

				<p>カールトン元支配人が学んだ一流のホスピタリティ心得—マニュアルではなく体験で身につける大事なこと』(こう書房、7月)</p> <p>力石寛夫編『勝てるホスピタリティの実践』(玉川大学出版部、8月)</p> <p>市川文彦・鶴田雅昭編『観光の経営史—ツーリズム・ビジネスとホスピタリティ・ビジネス』関西学院大学出版会、10月)</p>
2010	<p>『現代用語の基礎知識』(1月)</p> <p>有馬賢治「マーケティング用語の解説」「ホスピタリティー [hospitality]</p> <p>暖かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所=来客用の大きな家) に由来している。消費者はサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在し</p>		<p>三省堂編修所編『コンサイスカタカナ語辞典』(三省堂、2月、第4版)</p> <p>ホスピタリティー [hospitality]</p> <p>くら hospitalis (客扱いのよい)]旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。(現) (p.1041)</p> <p>北原保雄編『明鏡国語辞典』(大修館書店、10月、第2版)</p> <p>ホスピタリティー</p> <p>心のこもったもてなし。また、もてなしの心。(p.1609)</p>	<p>折戸晴雄編『レストラン・ホテルの挑戦—ホスピタリティ・マネジメント』(玉川大学出版部、3月)</p> <p>人とホスピタリティ研究所 (4月)</p> <p>経済産業省商務情報政策局サービス産業課『ホスピタリティ・マネジメント高度経営人材育成開発報告書』(経済産業省商務情報政策局サービス産業課、3月)</p> <p>四方啓暉『リッツ・カールトンの究極のホスピタリティ』(河出書房新社、5月)</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成 22年版』(日経印刷、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p> <p>小松田勝『ディズニールランドのホスピタリティー—世界のアルバイトはどのようにして生まれたの</p>

	<p>たホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.343)</p>			<p>か』(長崎出版、8月) 山本哲士編『ホスピタリティ講義(レクチャー)―ホスピタリティ・デザインと文化資本経済(ビジネス)―芸大講義+講演集』(文化科学高等研究院出版局、9月)</p>
2011	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング用語の解説」「ホスピタリティー [hospitality] 温かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主人が客を接待する場所=来客用の大きな家) に由来している。消費者はサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。</p>		<p>芳賀靖彦編『用例でわかるカタカナ新語辞典』学研教育出版、7月、改訂第3版) ホスピタリティー [hospitalit] 厚遇。もてなし。温かくもてなす誠意。☆高級ホテルさながらのホスピタリティをセールスポイントとする。(GetNavi PREMIUM 2006.1) (p.623)</p>	<p>祁李寧『観光教育についての一試論:ホスピタリティ教育の視点から』授与大学名:流通経済大学/授与年月日:3月20日/博士(社会学) 宮城博文『ホスピタリティ産業の形成におけるデスティネーションの発展:沖縄県におけるホテル業の集積の経緯、及びサービス・コンセプト提供の実現を中心に』授与大学名:立命館大学/授与年月日:2011年3月31日/博士(経営学) サービス&ホスピタリティ・マネジメント研究グループ/徳江順一郎編『サービス&ホスピタリティ・マネジメント』(産業能率大学出版部、3月) 水野紀男『ホスピタリティ・マネジメント―ホスピタリティによる苦情・不祥事防止から顧客満足経営まで』(I・L・Nコンサルティング、3月、改訂増補版) 安村克己他編『よくわかる観光社会学』</p>

	(p.585)		<p>(ミネルヴァ書房、4月)</p> <p>堀野正人「ホスピタリティ」</p> <p>わが国でもホスピタリティ (hospitality) という言葉が市民権を得てきた。ホテル、飲食などの接客対応を要する産業だけでなく、福祉、医療などの領域や地域の住民にさえもホスピタリティの重要性が説かれている。ホスピタリティの語源は、客人歓待を意味するラテン語のホスぺス (hospes) に由来し、キリスト教では「隣人を愛せよ」という慈悲の心を根底に据えた言葉として用いられてきた。この場合のホスピタリティは経済的利益や報酬を期待するものではないし、商品でもない。</p> <p>日本では「手厚いおもてなし」という言葉に翻訳されるが、研究の領域ではより幅広く、日常的な場面での人間関係の調整原理と考えられている。ホスピタリティの基本的性格として、自発的、個別性、非営利性、非作為性といったものが挙げられる。また、ホスピタリティは主体による一方向の行為ではなく、受け手である客体もそれに応えて感謝の意</p>
--	---------	--	---

				<p>を表し、両者の双方の行為のなかにつくられる持続的関係だとされる。この点で、奴隷を意味するラテン語のセルバス (servus) に由来する サービス (service) が、権利・義務的な主従関係を基本においた一方向の行為であることと対照的である。 (p.158)</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成 23年版』(日経印刷、8月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p> <p>鎌田實『たった1つ変わればうまくいく一生き方のヒント幸せのコツ』(集英社文庫、集英社、11月)</p> <p>※『超ホスピタリティ』(2007年刊)の加筆・修正、改題。</p> <p>福島文二郎『9割がバイトでも最高の感動が生まれるディズニーのホスピタリティ』(中経出版、11月)</p>
2012	<p>『現代用語の基礎知識』(1月)</p> <p>有馬賢治「マーケティング」「ホスピタリティー [hospitality]</p> <p>温かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital (病院、慈善施設) からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia (主</p>		<p>松村明編『大辞泉』(小学館、11月、第2版)</p> <p>ホスピタリティー ①心のこもったもてなし。手厚いもてなし。歓待の精神。 ②異人歓待。(p.3352)</p>	<p>岸田さだ子「ホスピタリティ概念の類型化と現代的意義」(『甲南女子大学研究紀要』文学・文化編、第48巻、3月)</p> <p>精神重視派、行為重視派、関係重視派 (pp.33-34)</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成 24年版』(日経印刷、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」</p>

	<p>人が客を接待する場所＝来客用の大きな家)に由来している。消費者はサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えばホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。</p> <p>(p.516)</p>			<p>への言及ない。</p> <p>吉岡勉『ホスピタリティ戦略会計：ホテル産業における戦略会計に関する研究』授与大学名：亜細亜大学／授与年月日：9月30日／博士(経営学)</p> <p>徳江順一郎『ホスピタリティ・マネジメント』（同文館出版、9月）</p>
2013	<p>『現代用語の基礎知識』（1月）</p> <p>有馬賢治「マーケティング」「ホスピタリティー [hospitality]</p> <p>温かくもてなす心、歓待の精神。もともとは hospital（病院、慈善施設）からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 hospitālia（主人が客を接待する場所＝来客用の大きな家)に由来している。消費者はサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えばホテルならば接客、食</p>			<p>中根貢『ザ・ホスピタリティ』（産業能率大学出版部、2月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●相手を受け入れる ●主客同一 ●相手の期待、願望を予測する ●一期一会 ●情報創造、価値創造を行う ●Well Being ●相互性(p.18) <p>まず、ホスピタリティは、どのような相手も無条件で受け入れることがベースとなる。</p> <p>受け入れの姿勢は「平等に」が原則である。(p.19)</p> <p>…「平等に」という考え方は、お互いに優劣・上下のない主客同一関係という相互性の意味を持っている。(p.21)</p> <p>宮城博文『沖縄観光</p>

	<p>事、パブリックスペースの快適さなどをひとつのまとまりとして滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業はすみずみまで配慮の行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.587)</p>		<p>とホスピタリティ産業』(晃洋書房、2月) サービス&ホスピタリティ・マネジメント研究グループ/徳江順一郎編『サービス&ホスピタリティ・マネジメント』(産業能率大学出版部、3月) 「2 サービス/ホスピタリティの語源と歴史」のうち ホスピタリティはそもそも、異邦人を歓待したところにその根源があるという。遠い異国から来た見知らぬ人をもてなし、時には病を癒す手助けをし、そしてまた旅に出られるおうにする、ということである。 現代で似た事例を探すと、他国でのホームステイなどはこのいい例であろう。ホームステイは、場合によってフィーも支払われるというが、原則は無料で、異国の人間に一定期間の寝食を提供するものである。こうした行為は、提供側からすれば、無料どころかむしろ「持ち出し」になってしまうことも少なくない。 それでは、なぜ異邦人を歓待するのだろうか。これは豊かになったと言われる現代特有の現象ではなく、古代から連続と続いているもの</p>
--	--	--	--

			<p>である。</p> <p>そもそものホスピタリティは、人類の歴史とともに存在してきたようである。ホスピタリティは、根源的には、人類が共同体を形成するプロセスにおいて、その共同で生活してない外からの来訪者を歓待し、休息の場や食事、あるいは衣類といった、生活に必要な諸要素を提供する異人歓待の風習にまで遡るといふ。自分たちのテリトリーを意識した場合、テリトリー外からの来訪者に対して敵対するだけでなく、歓待するという方向性での対応が生じたことは興味深い。</p> <p>このようなテリトリーは、「家」の単位から始まり、「親族」、「むら」、「まち」と発展し、さらに近代社会においては、「都市」や「国家」へと発展することとなった。こうしたテリトリー概念の発展とともに、ホスピタリティも発展し、市民間の、すなわち人と人とのホスピタリティから、産業としてのホスピタリティへと変化してきた。こうした事実は古代のさまざまな伝説や逸話、そして神話の中に、共同体内外の人間における関係性に関する記述</p>
--	--	--	---

			<p>が多く見られることから裏付けられる。</p> <p>つまり、日常生活とは異なる環境から来た人間との触れ合いは、それだけでも一定の意味をなすものであり、歴史的にはそれ以上の価値も付加されてきたものと考えられる。</p> <p>(p. 10)</p> <p>そしてもう1つは、前にも触れた「情報的ホスピタリティ観」とでもいべきもので、ホスピタリティが社会を幸福にする、ホスピタリティによって何かもうまくいく、といった主張があてはまる。(p. 13)</p> <p>ソーシャル・ホスピタリティ研究グループ・徳江順一郎編『ソーシャル・ホスピタリティ』(産業能率大学出版部、3月)</p> <p>徳江順一郎『ソーシャル・ホスピタリティ』(産業能率大学出版部、4月)</p> <p>青木義英・神田孝治・吉田道代編『ホスピタリティ入門』(新曜社、4月)</p> <p>神田孝治「序章 ホスピタリティとは」</p> <p>英語の hospitality の語源は、「客」、「旅人」、「異邦人」、「客をもてなす主人」といった意味をもつラテン語 hospes から発生した hospitālis です。この hospitālis</p>
--	--	--	---

			<p>は、来訪者を歓待することを意味しています。そのため hospitalityとは、外からの来訪者を迎え入れる歓待を指し示す用語であるといえます。「ホスピタリティ」とはこの hospitalityを片仮名にしたものですが、本書ではそれを「歓待」を意味する語として使用することにします。(p.1)</p> <p>…ホスピタリティは、社会的には私的にも意味があるものでした。たとえば古代ギリシャの哲学者アリストテレスは、ホスピタリティを賢人の徳のひとつに数えています。ホスピタリティは富を用いるもっともよい方法であり、その出費の大きさによって偉大さを示すことができるというのです。そして豪華なホスピタリティの実践は、見せびらかしのためのもとなり、競争心が煽り立てられていったのです。またこのように来訪者を歓待することは、外部の新しい知識を手に入れ、自らの社会が小さく停滞したものにならないためにも必要なことでした。そもそも外来の客は、潜在的に敵になる可能性を有していますから、ホスピタリティにより危険を</p>
--	--	--	--

				<p>祓うことは大きな意味があるのです。特に古代ギリシャの時代には、重要な役割をはたしたのです。</p> <p>(p.2)</p> <p>徳江順一郎『ホテル経営概論—トライアド・モデルでとらえるホスピタリティ産業論』(同文館出版、5月)</p> <p>高野登『リッツ・カールトン 至高のホスピタリティ』(角川書店、5月)</p> <p>吉村文雄『ホスピタリティ産業の戦略と会計—サービス管理のシステム情報戦略』(森山書店、6月)</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成 25年版』(昭和情報プロセス、7月)</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p> <p>滝川クリステル「おもてなし」(国際オリンピック委員会の第125次IOC創刊、9月7日)</p> <p>2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定(9月8日)</p>
2014	<p>『現代用語の基礎知識』(1月)</p> <p>有馬賢治「マーケティング」のうちホスピタリティー[hospitality] 温かくもてなす心、歓待の精神。「hospital (病院、慈善施設)」からの派生語であ</p>		<p>見坊豪紀編『三省堂国語辞典』(三省堂、1月、第7版)</p> <p>ホスピタリティー 旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。(p.1421)</p> <p>三省堂編修所編『見やすいカタ</p>	<p>窪山哲雄『ホスピタリティ・マーケティングの教科書—「生涯顧客」を創造する最強のブランド戦略』(有楽出版社、2月)</p> <p>Anel Bagadayeva『公共サービスにおけるホスピタリティ: JR改革を事例に』</p>

	<p>るが、源流は後期ラテン語「hospitālia(主人が客を接待する場所=来客用の大きな家)に由来する。消費者は提供されるサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えば、ホテルならば接客、食事、パブリックスペースの快適さなどの全体像で滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業は配慮がすみずみまで行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.508)</p>		<p>カナ新語辞典』(三省堂、9月) ホスピタリティ 【hospitality】 丁寧なもてなし。また、もてなす心。(p.674)</p>	<p>授与大学名：広島大学／授与年月日：3月23日／博士(学術) 牧和生『サブカルチャーにおけるダイナミズムとホスピタリティ』授与大学名：青山学院大学／出版年月日等：3月25日／博士(経済学) 王文娟「「ホスピタリティ」概念の受容と変容」(『広島大学マネジメント研究』第15巻、広島大学マネジメント学会、3月)(pp.47-63) 王文娟「「ホスピタリティ」概念の受容と変容」(『広島大学マネジメント研究』第15巻、広島大学マネジメント学会、3月、pp.47-63) 「ホスピタリティ」は「おもてなし」「親切なもてなし」として理解されることが多い。勿論「おもてなし」の一部をも含んだ言葉であることは違いないが、「ホスピタリティ」という概念を、語源の流れを見て分かるように、多くの派生語に関連している。「おもてなし」は「ホスピタリティ」のもつ意味を十分に表現できない。これは多くの先行研究にも言及されている。ただ、日本の「もてなし文化」と新概念としての「ホスピタリティ」とどういう関連性や伝承性があるか、徳江</p>
--	--	--	---	---

			<p>(2012)が指摘したように、この訳語である「おもてなし」が「情緒的ホスピタリティ観」に与える影響があるかどうか、あればどのようにその影響を解説するか、といった一連の問題がまだ解明されていない。これを今後の課題とする。</p> <p>(p.60)</p> <p>※徳江（2012）とは徳江順一郎『ホスピタリティ・マネジメント』（同文館、2012年9月）</p> <p>徳江純一郎・長谷川恵一他『数字でとられるホスピタリティ会計&ファイナンス』（産業能率大学出版部、4月）</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成26年版』（昭和情報プロセス、7月）</p> <p>「ホスピタリティ」への言及ない。</p> <p>吉原敬典編『ホスピタリティマネジメント—活私利他の理論と事例研究』（白桃書房、7月）吉原敬典「ホスピタリティの魅力について」</p> <p>ホスピタリティ概念のルーツであるホスぺス（Hospes）に依拠すると、その意味するところは下記の3点である。第一は、自律性を発揮する人間は極めて主体的な存在だということである。ホストもゲスト</p>
--	--	--	--

			<p>も自律的で自発的に働きかける主体である。また、自らの能力を発揮しようとする存在である第二は、自己利益の最大化を図るのではなく、他者の利益を重視する考え方に基づいて他者との共存可能性を探る存在だということである。そのためには、他者に対しての受容性がポイントである。第三は、人間は何かを達しするために誕生し存在しているということである。もともと一人では限界多き存在である人間がなかば本能的に行うことといえば、他者との信頼関係を構築して新たな価値を共有することである。</p> <p>(p. 24)</p> <p>ホスピタリティ概念は、人間が行うすべての活動領域において適用可能である。また、前述した属性分析に基づいて、ホスピタリティについては次のように定義したところである。</p> <p>主体が自律的にアイデンティティの獲得を目指して自己を鍛え自己を発信しながら、他者を受け容れ交流して、信頼関係づくりを行い互いに補完し合って社会の発展に貢献する価値を共創する活動で</p>
--	--	--	---

				<p>ある。(p.29)</p> <p>吉原敬典子編『ホスピタリティマネジメント 活私利他の理論と事例研究』(白桃書房、7月)</p> <p>David K. Hayes, Allisha A. Miller/中谷秀樹訳『ホスピタリティ産業のレベルニュー・マネジメント』(流通経済大学出版会、10月)</p> <p>徳江順一郎編『ブライダル・ホスピタリティ・マネジメント』(創成社、11月)</p> <p>清水均/日経レストラン編『ホスピタリティマネジメントー人が集まる・心をつかむ・育ち、離れない:店長必携』(日経BP社、10月)</p> <p>JTB コーポレートソリューションズ編『歓喜のホスピタリティ・マネジメントー「おもてなし」大国ニッポンが陥るサービスの落とし穴』(ダイヤモンド・ビジネス企画、12月)</p>
2015	<p>『現代用語の基礎知識』(1月)</p> <p>有馬賢治「マーケティング」のうちホスピタリティー[hospitality]温かくもてなす心、歓待の精神。「hospital(病院、慈善施設)」からの派生語であるが、源流は後期ラテン語「hospitālia(主人</p>		<p>小野正弘他編『三省堂現代新国語辞典』(三省堂、1月、第5版)</p> <p>ホスピタリティー[hospitality]親切にもてなすこと。歓待。(p.1277)</p> <p>中村徳次監修『ポケット版外来語新語辞典』(4月)</p>	<p>星野晴彦『社会駆サービスとホスピタリティードラッカー理論を踏まえて』(相川書房、2月)</p> <p>山口一美『感動経験を創るホスピタリティー・マネジメント』(創成社、3月)</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成27年版』(日経印刷、8月)</p> <p>「ホスピタリティ」</p>

	<p>が客を接待する場所＝来客用の大きな家)に由来する。消費者は提供されるサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えば、ホテルならば接客、食事、客室やロビーの快適さなどの全体像で滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業は配慮がすみずみまで行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.454)</p>		<p>ホスピタリティー 歓待;もてなし。(p.524)</p>	<p>への言及ない。 阿部佳『お客様の「気持ち」を読みとく仕事コンシェルジューホスピタリティーのプロを目指すあなたへ』(秀和システム、8月) 稲田賢次「ホスピタリティーに関する概念の一考察ーホスピタリティー、サービスおよびもてなしについて」(『龍谷大学経営学論集』第55巻第1号、10月) …異人歓待におけるホスピタリティーは宗教的、社会的、倫理的な義務として考えられ、普遍的な伝統として意味を見出すことができる。ヨーロッパのホスピタリティー研究ではビジネスからのアプローチが主体ではなく、「歓待」という共同体のあり方が神学、社会学、人類学、哲学などのアプローチからも研究されている。 (p.46) 日本ホスピタリティー検定協会(11月)</p>
<p>2016</p>	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング」のうちホスピタリティー[hospitality] 温かくもてなす心、歓待の精神。「hospital(病院、慈善施設)」からの派生語であるが、源流は後期ラテン語</p>	<p>林四郎監修『例解新国語辞典』(三省堂、1月、第6版) 見出し語なし。 芳賀靖彦編『学研現代標準国語辞典』(学研プラス、2月、改訂第3版) 見出し語なし。 土屋徹編『用例でわかるカタカ</p>	<p>伊藤嘉博編『サービス・リエンジニアリングー顧客の感動を呼ぶホスピタリティーを低コストで実現する』(中央経済社、1月) 今井真貴子『風土に育まれた日本旅館のおもいやりに関する研究：「ホスピタリティー」という言葉がもつ表層性への疑</p>	

	<p>「hospitālia(主人が客を接待する場所=来客用の大きな家)に由来する。消費者は提供されるサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えば、ホテルならば接客、食事、客室やロビーの快適さなどの全体像で滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業は配慮がすみずみまで行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.519)</p>		<p>『新語辞典』(学研プラス、6月、改訂第4版) ホスピタリティー 厚遇。もてなし。温かくもてなす誠意。(p.662) 芳賀靖彦編『学研標準国語辞典』(学研プラス、12月、改訂第3版) 見出し語なし。</p>	<p>義』授与大学名：同志社大学／授与年月日：3月31日／博士(政策科学) 西澤健次『ホスピタリティと会計』(国元書房、4月) 榊原陽子『医療機関のホスピタリティ・マネジメント』(中外医学社、4月) 国土交通省観光庁編『観光白書 平成28年版』(昭和情報プロセス、8月) 「第Ⅲ部 平成27年度に講じた施策」のうち 「ホスピタリティタクシー」(p.139) 馬淵将平『テクノホスピタリティを世界へ一断トツナンバーワンへの挑戦』(ダイヤモンド社、6月) 徳江順一郎『ホスピタリティ・デザイン論』(創成社、7月) 『医療タイムス』(特集：2016年度医療機関アワード ホスピタリティ溢れる医療社会を 医療機関を直接患者が評価、第2271号、医療タイムス社、9月)</p>
2017	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング」のうちホスピタリティー[hospitality] 温かくもてなす心、歓待の精神。 「hospital(病院、慈善施設)」からの派生語であ</p>		<p>金田一春彦・金田一秀穂編『学研現代新国語辞典』(学研プラス、12月、改訂第6版) 見出し語なし。</p>	<p>中里のぞみ・紺野猷邦『ホスピタリティとホスピタリティマネジメント これからのホスピタリティ経営』(パレード、2月) 国土交通省観光庁編『観光白書 平成29年版』(昭和情報プロセス、9月)</p>

	<p>るが、源流は後期ラテン語「<i>hospitālia</i>(主人が客を接待する場所=来客用の大きな家)に由来する。消費者は提供されるサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えば、ホテルならば接客、食事、客室やロビーの快適さなどの全体像で滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業は配慮がすみずみまで行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.495-496)</p>			<p>「第Ⅲ部 平成30年度に講じようとする施策」のうち「宿泊施設のホスピタリティ向上のワークショップ」(p.201) 永田美江子『女子大学における観光ホスピタリティ教育の展開：平安女学院大学を事例に』 授与大学名：立命館大学／授与年月日：9月25日／博士(学術) 武田知也『お辞儀の動作及び印象評価に関する研究』授与大学名：京都工芸繊維大学／授与年月日：2017年9月25日／博士(学術) ※章立では「ホスピタリティ」はないが、文中では取り上げている。 安東徳子『究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方—AIにはできない、人にしかできない!』(コスモ 21, 9月)</p>
2018	<p>『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング」のうちホスピタリティー[hospitality] 温かくもてなす心、歓待の精神。 「hospital (病院、慈善施設)」からの派生語であるが、源流は後期</p>		<p>新村出編『広辞苑』(岩波書店、1月、第7版) ホスピタリティー 【hospitality】客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持。(p.2699)</p>	<p>ジャック・デリダ、アンヌ・デュフールマンテル／廣瀬浩司訳『歓待についてパリ講義の記録』(筑摩書房、1月) ※ Jacques Derrida and Anne Dufoumantelle. “De L’Hospitalité” の翻訳。 「訳者あとがき」一</p>

	<p>ラテン語「hospitālia(主人が客を接待する場所=来客用の大きな家)に由来する。消費者は提供されるサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えば、ホテルならば接客、食事、客室やロビーの快適さなどの全体像で滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業は配慮がすみずみまで行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(p.475)</p>		<p>九九六年にデリダがあえて「歓待」をテーマに据えた背景には、いわゆる移民や難民の問題という緊急事態があったことはあきらかである。フランスでは一九七三年の憲法で「自由という大義ゆえに祖国を追われた外国人に庇護を与える」ということが明文化されていた(ただし、このように歓待が近年の法や「人権」に書き込まれると同時に、ナショナリズムと庇護の矛盾が始まることも付け加えておく必要がある)。自由と庇護の地、フランス。だが、少なくとも一九七四年以来、フランス政府は「移民の波を統御する」という名目のもとに、労働移民に対する規制を強化し、とりわけ一九八六年、さらに九二年以降、本書でも触れられている悪名高き「パスクワ(当時の内務大臣)法」などによって、移民の入国・滞在の規制が強化されていった。同時に、フランス国籍法の改正も行われ、フランスで生まれた外国人の子どもが自動的に国籍を獲得することも見直されたいく。政権交代・経済状態の変化・極右の台頭などの外的な状況の変化とともに</p>
--	---	--	---

			<p>に、規制は緩和されたり、再び強化されたりするが、いずれにせよ確実なことは、この過程において「サン・パピエ（滞在・労働許可証なき者）」と呼ばれる「不法」移民が生産されてしまったことである。</p> <p>(pp.183-184)</p> <p>星野晴彦『障害者福祉サービスをホスピタリティの視点から考察する～社会福祉サービスのパラダイムチェンジの時代に向けて』</p> <p>授与大学名：国際医療福祉大学／授与年月日：3月7日／博士(医療福祉ジャーナリズム学)</p> <p>徳江順一郎『ホスピタリティ・マネジメント』（同文館出版、3月、第2版）</p> <p>これは大きくは二つに分けられます。まず、あまりに「心」を重視しすぎるのではないかという視点である。ホスピタリティの起源には、確かに旅人を「もてなし」という行為に対する共通項は見出しうるが、ここで大きな疑問となるのは、特に日本では、なぜ「心からの…」といった表現にみられるように、「心」を強調するのか、という点である。これは「冗長的ホスピタリティ観」</p>
--	--	--	---

			<p>とも呼ばれ、ホスピタリティが社会を幸福にする、ホスピタリティによって何もかもうまくゆく、といった主張をとまなうことが多い。後述するサービスの対比においては特に多く見られ、ホスピタリティ絶対視の根源ともなっている。もちろん究極的には人間関係のコアな要素に関わる研究であるから、社会の幸福に対する影響も多いのであろうが、他の学問分野の研究成果を引用しつつ、ホスピタリティこそが絶対である、といった「ホスピタリティ原理主義」的主張も一部には存在している。</p> <p>ここまで究極ではないにせよ、恐らくはわが国において最も多く用いられるホスピタリティの訳語である「おもてなし」も、こういった情緒的ホスピタリティ観の影響が無視できない。情緒性が万能となってしまう、結果的に本質的な部分が覆い隠されてしまいかねない危険性をはらんでいる。</p> <p>(pp.45-46)</p> <p>星野晴彦『障害者福祉サービス従事者におけるホスピタリティ意識の形成』(ミネルヴァ書房、10月) …ホスピタリティには倫理・精神・行</p>
--	--	--	---

				<p>為・行動・関係・機能という次元があり、異質なもの同士の対等でインタラクティブな共働が、新たな価値を生み出すことが示唆されている。(p.14)</p> <p>これまでの議論をまとめると、以下の点を包含する概念として仮に定義することができよう。</p> <p>(1) 人間の尊厳を認識し、心からの接遇を行う。</p> <p>(2) 自立した人格が自立した人格としての他者をもてなす、という関係構造となる。</p> <p>(3) 異質なもの同士の対等でインタラクティブな共働が、新たな価値を生み出す。</p> <p>(4) 「内面（精神性）と行為」と包含した「機能」である。</p> <p>(5) 倫理・精神・行為・行動・関係・機能を含む。(p.15)</p> <p>国土交通省観光庁編『観光白書 平成 30 年版』（日経印刷、9 月）</p> <p>「第 2 章 観光産業を革新し、国際競争を高め、我が国の基幹産業に」のうち「宿泊施設のホスピタリティ向上のワークショップ」(p.201)</p>
2019	『現代用語の基礎知識』(1月) 有馬賢治「マーケティング」のうち	中邑光男編『アクセスジャーニアス英和辞典』(大修館書店、12	小野正弘編集主幹『三省堂現代新国語辞典』(三省堂、1	中井延美「「hospitality」が「ホスピタリティ」として日本語に溶け

	<p>ホスピタリティー [hospitality] 温かくもてなす心、歓待の精神。 「hospital (病院、慈善施設)」からの派生語であるが、源流は後期ラテン語 「hospitālia(主人が客を接待する場所=来客用の大きな家)に由来する。消費者は提供されるサービス商品を、個々の要素の集合体としてではなく、まとまりのある全体像で評価する。例えば、ホテルならば接客、食事、客室やロビーの快適さなどの全体像で滞在したホテルの評価を下す。したがって、企業は配慮がすみずみまで行き届いたもてなしで顧客に対応する必要がある。(pp.505-506)</p>	<p>月) ① (訪問客に対する) 親切なもてなし ② (企業が顧客などに提供する) もてなし [無料の] 飲食物、サービス (p.835)</p>	<p>月、第6版) ホスピタリティー (-) 親切にもなてなすこと。歓待。(p.1294) 松村明編『大辞林』三省堂、9月、第34版) ホスピタリティー 【hospitality】 丁寧なもてなし。また、もなしの心。 (p.2379) 三省堂編修所編『三省堂ポケットカタカナ語辞典』(三省堂、9月、第2版) ホスピタリティー 【hospitality】 丁寧なもてなし。また、もてなす心。 (p.307) 山田俊雄編『新潮国語辞典』(新潮社、11月、第2版)では見出し語なし。 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫他編『岩波国語辞典』(岩波書店、11月、第8版) ホスピタリティー 客人を親切にもてなすこと。(p.1438)</p>	<p>込むまで」(『異文化の諸相』第39巻第11号、2月)(pp.19-29)のうち …崇高な宗教的概念に裏打ちされた「ホスピタリティー」ということばは、洒落た響きを伴う外来語として日本語のなかに徐々に広まり、独自の変化を遂げ、今やれっきとした日本語として独り歩きすらしている。そのような日本語の「ホスピタリティー」の特徴は、日常的レベルから観光ホスピタリティーの結びつきが強く、解釈の裾野がより広いものになってきていることだといえよう (p.27)。 国土交通省観光庁編『観光白書 令和元年版』(昭和情報プロセス、10月) 「第Ⅱ部 平成30年度に講じた施策」のうち 「ホスピタリティー向上のためのワークショップ」(p.144) 山口和美『感動経験を創るホスピタリティー・マネジメント』(創成社、10月、改訂版)</p>
2020	『現代用語の基礎知識』は以降掲載方法に変更あり。見出し語なし。		山田忠雄他編『新明解国語辞典』三省堂、11月、第8版) ホスピタリティー	吉原敬典編『ホスピタリティーマネジメントが介護を変えるーサービス偏重から双方向の関わり合い

			<p>一〔hospitality＝親切なもてなし〕接客業で、従業員が客に対して最善のサービスをしようとする気持ちや考え方。 (p.1146) 三省堂編修所編『コンサイスカタカナ語辞典』(三省堂、10月、第5版) ホスピタリティー</p> <p>〔hospitality〕 <ラ hospitalis (客扱いのよい)旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。> 現 (p.1088)</p>	<p>へ』(ミネルヴァ書房、7月) 国土交通省観光庁編『観光白書 令和元年版』(日経印刷、8月) 「ホスピタリティ」への言及なし。</p>
2021	『現代用語の基礎知識』 見出し語なし。		<p>北原保緒編『明鏡国語辞典』(大修館書店、1月、第3版) ホスピタリティー〔hospitality〕 心のこもったもてなし。また、もてなしの心。 (p.1526) 林四郎監修/篠崎晃一他編『例解新国語辞典』(三省堂、2月、第10版) では見出し語なし。 増井金典『わかる!使える!外来語辞典』(ミネルヴァ書房、2月) ホスピタリティー</p>	<p>Hashimoto Shunsaku. Development of Human Resource Management in the Hospitality Organization: Focusing on the concept of "Treating employees as customers" 授与大学名: 和歌山大学/授与年月日: 3月25日/博士(観光学) ※橋本俊作『ホスピタリティ組織における人的資源管理の展開: 「従業員を顧客として扱う」という概念に焦点をおいて』 国土交通省観光庁編『観光白書 令和3年版』(日経印刷、8</p>

			<p>[hospitality] もてなし。おもいやり。厚遇。温かくもてなす誠意。(p.341) 三省堂編修所編『三省堂大きな字で読む常用辞典 国語・カタカナ語』(三省堂、6月、第2版) ホスピタリティー</p> <p>【hospitality】 丁重なもてなし。また、もえなす心。(p.309) 三省堂編修所編『見やすいカタカナ新語辞典』(三省堂、9月、第4版) ホスピタリティー</p> <p>【hospitality】 丁重なもてなし。またもてなす心。(p.716) 堀内克明監修『現代用語の基礎知識 カタカナ外来語 ABC 略語辞典』自由国民社、11月、第6版) ホスピタリティー [hospitality] 客のもてなしのよいこと。(p.720)</p>	<p>月) 「第Ⅲ部 令和2年度に講じた施策」 「ラグジュアリーホスピタリティ業界」(p.149) 「コミュニケーション・ホスピタリティ」(p.209) 東京オリンピック(7月23日～8月8日) 東京パラリンピック(8月24日～9月5日) 飯嶋好彦他編『ホスピタリティ産業論』(創成社、9月) 村瀬永育編『ホスピタリティ・オペレーション—顧客の顔を聴く関係技術の手法』(文化科学高等研究院出版局、10月) 飯島好彦『ホスピタリティ産業論』(創成社、10月)</p>
2022	『現代用語の基礎知識』 見出し語なし。		見坊豪紀他編『三省堂国語辞典』(三省堂、1月、第8版) ホスピタリティー	国土交通省観光庁編『観光白書 令和4年版』(昭和情報プロセス、8月) 「ホスピタリティ」への言及なし。

			<p>〔hospitality〕 旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。 (p.1416) 金田一京助他編 『新選国語辞典』(小学館、2月、第10版) ホスピタリティー</p> <p>(hospitality) 心のこもったもてなし。あたたかく親切なもてなし。 (p.1255)</p>	<p>新資本経済圧壊編 『おもてなしとホスピタリティーサービスとのちがい』(文化科学高等研究院出版局、11月) ホスピタリティーとサービスは働く原理が持ったく相反するのです。 ガイドラインとして、概略しますと サービスは、商品／社会の原理で働いている。⇔ホスピタリティーは、資本／場所の原理で働いている。 サービスは、一対多数、誰にでも同じ事をする。⇔ホスピタリティーは、一対一、人によってすべて異なる事がなされる。 サービスは、同一性の働きであり、必然の規則行使である。⇔ホスピタリティーは、差異性の働きであり、偶然の対他行使である。(pp.16-17) 今泉麻衣子・長瀬次英『世界基準のホスピタリティー』 (Independently published、12月)</p>
2023	『現代用語の基礎知識』 見出し語なし。		<p>三省堂編修所編 『見やすいカタカナ新語辞典』 (三省堂、9月、第5版) ホスピタリティー</p> <p>【hospitality】 丁寧なもてなし。また、もて</p>	<p>藤本倫史『スポーツビジネス学—ホスピタリティーサービスを生かす—Sports hospitality handbook』(晃洋書房、4月) 国土交通省観光庁編『観光白書 令和5年版』(昭和情報プロ</p>

			なす心。 (p.752)	セス、8月) 「第Ⅱ部 令和4年度に講じた施策」 「日本らしいスポーツホスピタリティ」 (p.72) 「日本らしいスポーツホスピタリティ」 (p.93)(p.94) 森きょうか『上質なホスピタリティサービスを提供する「察しのスキル」—客室乗務員はなぜ寄り添うことができるのか』(晃洋書房、12月) 榊原陽子『医療機関のホスピタリティ・マネジメント』(中外医学社、12月、改訂2版)
2024		(参考) <i>Oxford English Dictionary</i> (online, April) “omotenashi” In Japan: good hospitality, characterized by thoughtfulness, close attention to detail, and the anticipation of a guest's needs.		今泉景子『ホスピタリティを磨く20のレッスン』(名古屋外国語大学出版社、3月) 金子章予編『ホスピタリティ概論—ホスピタリティ研究・教育・産業の現状と未来』(学文社、3月) 金子章予「ホスピタリティ研究の基礎(1)」 日本におけるホスピタリティ研究の近年の活況は、基本的には、欧米と同様、飲食業、観光業、宿泊業などの市場規模の増大を背景としている。 しかし、日本におけるホスピタリティ関連研究は、欧米の関連研究よりも大きな広がりを見せてい

				<p>る。まず、経営学だけでなく、福祉学、看護学、コミュニティ論、心理学等においても関連研究が多数存在している。これらの学問分野では、ホスピタリティという概念を活用した対人関係の在り方が多く議論されている。また、とくに1990年代における「ホスピタリティ」という言葉の日本社会への浸透・日本語化によって、日本独自の意味づけを施された「日本語のホスピタリティ」概念とともに、概念研究や接遇マナーに関する教育研究が独自の地位を占めていることが、日本におけるホスピタリティ研究の禿頭である。(pp.1-2)</p> <p>佐々木茂・徳江順一郎・羽田利久編『ホスピタリティ・マーケティング』（創成社、5月）</p> <p>日本ホスピタリティ検定協会編『新版社会人ホスピタリティ要点チェック&確認問題』（経済法令研究会、5月）</p>
--	--	--	--	--

(1) https://www.mlit.go.jp/kisha/oldmot/kisha00/koho00/tosin/kansin/yousi_.html.

Accessed 27 Apr. 2024.

2 学会・団体等における「ホスピタリティ」の定義

日本ホスピタリティ・マネジメント学会

私たちは、その根底をなす理念を「ホスピタリティ」と考え、平成4年(1992年)8月に日本ホスピタリティ研究会(学会設立準備委員会)を発足しました。

平成8年(1996年)1月24日には日本ホスピタリティ学会を創立しましたが、その後平成9年(1997年)10月4日より「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」へと発展させ、営利組織・非営利組織のマネジメントを視野に入れた学会活動を展開しております。

産業界においては、情報化に伴う自動化、システム化が進展する中、あらためて人間のあり方が問われているとともに、国境を越えて同業種・異業種を問わず企業間の相互連携へと発展し、また地方行政においても、地域間の相互連携の推進が行なわれ、人間が生きるに値する新たな価値創造への動きが顕在化してきているところです。

本学会は、このような動向の研究を「ホスピタリティ」の研究と位置づけております。

日本ホスピタリティ・マネジメント学会(Japan Academic Society of Hospitality Management)では、「ホスピタリティ」の考え方を基軸にして、下記のマネジメント研究を行ない、社会・組織・個人の相互繁栄、産業の振興、地域の健全な発展に寄与することを目的としています。

- 1.地域産業、地域行政、情報通信、レジャー・観光、医療・介護、社会福祉、環境、教育文化等の営利・非営利の分野において、関係者間の相互交流、相互連携を重視する「ホスピタリティ」の視点からマネジメントの研究を行なう。
- 2.組織関係者相互の力を活かし合う快適な環境を整備し、社会が評価する新たな価値を創造するマネジメントの研究を行なう。
- 3.組織関係者が相互関係を築き、相互作用を促進し、相互補完を行なって、プラスの相乗効果を生み出すマネジメントの研究を行う。

本学会では、「ホスピタリティ」をマネジメントする視点に立って、「ホスピタリティ・マネジメント」に関する全国大会、コンベンション、研究会、フォーラム、シンポジウム等の開催、学会誌や学会報の刊行などを通じて、学術的進歩に貢献するとともに、広くホスピタリティ・マネジメントの普及・啓発活動を推進しています。

今後は、さらに学術的な研究の場を整えて、さまざまな分野の方々が相互に交流し啓発し合える環境を整備して参りたいと考えております。

<https://hm-ac.jp/purpose/> Accessed 26 May 2024.

日本ホスピタリティ推進協会

ホスピタリティとは

ホスピタリティとは接客・接遇の場面だけで発揮されるものではなく、人と人、人とモノ、人と社会、人と自然などの関わりにおいて具現化されるものである。

狭義の定義では、人が人に対して行ういわゆる「もてなし」の行動や考え方について触れていて、これは接客・接遇の場面でも使われるホスピタリティのことである。主人と客人の間でホスピタリティが行き交うが、それは一方通行のものではなく、主人が客人のために行う行動に対して、それを受ける客人も感謝の気持ちを持ち、客人が喜びを感じていることが主人に伝わることで、共に喜びを共有するという関係が成立することが必要だ。すなわち、ホスピタリティは両者の間に「相互満足」があってこそ成立する。

つまり、主客の両方がお互いに満足し、それによって信頼関係を強め、共に価値を高めていく「共創」がホスピタリティにおける重要なキーワードなのである。

広義の定義では、ホスピタリティが主人と客人の二者間の話にとどまらないことを言っている。社会全体に対して、その構成員である人々が、ホスピタリティの精神を発揮することで、相互に満足感を得たり、助け合ったり、共に何かを創りあげることができ、それによって社会が豊かになっていくという大きな意味でもホスピタリティは重要である。

ホスピタリティは一般的にはサービスを提供する企業と、それを受け取る顧客との領域で論じられることが多いが、決してそれだけにとどまるものではない。例えば企業活動においては、顧客以外のステークホルダーである従業員や、地域社会に対してもホスピタリティを発揮することが大切で、それによって社員の働きがいを高め、社員同士がチームとして創造性を高めたり、地域社会との関係性を高めたりすることで好ましい経営環境をつくりあげることができる。

<https://hospitality-jhma.org/hospitality/> Accessed 26 May 2024.

一般社団法人 接遇教育推進機構

ホスピタリティはビジネスにおける形式的なマナーだけを指すものではありません。

「他人を思いやる心」「物事を円滑に進める為の方法」「自らを振り返り、何気なく行っていた自分の対応が相手に不快感を与えてしまっていないか？」など、対人間関係スキルの向上を目指すことも目的のひとつとなっています。

そして、これらの技術は、現在、就職活動をされている学生のみならず、上司や取引先の顧客との対応に悩まされている方、または、転職・独立を考えている社会人の方々など、幅広く多様な状況で役立つスキルとなっています。

<https://www.skskjapan.org/exam/index.html#:~:text=%E3%83%9B%E3%82%B9%E3%83%94%E3%82%BF%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3%E3%81%AF%E3%83%93%E3%82%B8%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E5%BD%A2%E5%BC%8F,%E3%81%B2%E3%81%A8%E3%81%A4%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%81%A4%E3%81%A8%E3%81%A4%E3%81%A8%E3%81%A4%E3%81%A8>

(3) その他

金子章予編『ホスピタリティ概論—ホスピタリティ研究・教育・産業の現状と未来』（学
文社、2024年3月）

金子章予「ホスピタリティ研究の基礎（1）」

表1. 日本におけるホスピタリティ研究の主要なテーマ

	テーマ	サブテーマ
1	ホスピタリティ概念	語源・起源、歴史、意味、使用方法等
2	ホスピタリティ産業 及び関連産業	動向、政策、課題等
3	ホスピタリティマネジ メント	①ホスピタリティ産業における経営、さまざまなマネジ メント ②ホスピタリティという概念を応用した対人関 係のマネジメント
4	ホスピタリティ性	対人関係における思いやり、利他的道徳性や態度、その 教育
5	マナー、エチケット、 プロトコール	マナー（対人間の礼儀作法）、エチケット（ 当時社会における礼儀作法）、プロトコール（外交関係 における手順・ルールなど）
6	ホスピタリティ教育	①ホスピタリティ産業人材教育としてのマネジメント教 育（3つ②と同） ②ホスピタリティ性の教育

(p.2)